

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 1 2 月 2 2 日
Date of Application:

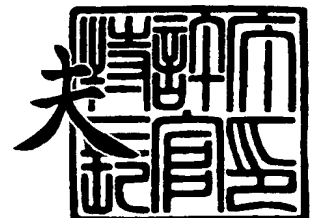
出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 4 2 4 4 9 3
Application Number:
[ST. 10/C] : [J P 2 0 0 3 - 4 2 4 4 9 3]

出 願 人 セイコーエプソン株式会社
Applicant(s):

2 0 0 4 年 4 月 1 3 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



出証番号 出証特 2 0 0 4 - 3 0 3 0 5 5 8

【書類名】 特許願
【整理番号】 J0104991
【提出日】 平成15年12月22日
【あて先】 特許庁長官 殿
【国際特許分類】 H04N 1/00
【発明者】
 【住所又は居所】 長野県諏訪市大和3丁目3番5号 セイコーエプソン株式会社内
 【氏名】 小高 教
【発明者】
 【住所又は居所】 長野県諏訪市大和3丁目3番5号 セイコーエプソン株式会社内
 【氏名】 内山 順也
【特許出願人】
 【識別番号】 000002369
 【氏名又は名称】 セイコーエプソン株式会社
【代理人】
 【識別番号】 100098235
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 金井 英幸
【先の出願に基づく優先権主張】
 【出願番号】 特願2003- 89638
 【出願日】 平成15年 3月28日
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 062606
 【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1
 【包括委任状番号】 0000258

【書類名】 特許請求の範囲**【請求項 1】**

表示装置及び入力装置を具備したファクシミリ装置であって、

F A X 送信すべき原稿から F A X データを生成するための読取ジョブ、F A X データを指定されている F A X 送信先に送信するための F A X 送信ジョブ、送信されてきた F A X データを受信して記憶するための F A X 受信ジョブ、F A X 受信ジョブにより受信され記憶された F A X データに基づく印刷を行うための印刷ジョブとを実行可能な F A X 制御手段と、

前記表示装置及び前記入力装置を、ユーザにより前記入力装置に対してボタンを押下する操作が行われる度に、前記 F A X 制御手段による実行が完了していない各ジョブの内容が前記表示装置に 1 ジョブずつ順々に表示される手段として動作させる表示・入力装置制御手段

とを、備えることを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項 2】

表示装置及び入力装置を具備したファクシミリ装置であって、

F A X 送信すべき原稿から F A X データを生成するための読取ジョブ、F A X データを指定されている F A X 送信先に送信するための F A X 送信ジョブ、送信されてきた F A X データを受信して記憶するための F A X 受信ジョブ、F A X 受信ジョブにより受信され記憶された F A X データに基づく印刷を行うための印刷ジョブとを実行可能であると共に、F A X 送信ジョブ及び印刷ジョブのキューイングが可能な F A X 制御手段と、

前記表示装置及び前記入力装置を、ユーザが、前記入力装置を操作することにより、未完了の各ジョブの内容を、前記表示装置に、読取ジョブ、F A X 送信ジョブという順で、1 ジョブずつ表示させることができ、複数の F A X 送信ジョブが存在する場合には、各 F A X 送信ジョブの内容を、各 F A X 送信ジョブの管理開始時刻順とは逆順で表示させることができる手段として動作させる表示・入力装置制御手段

とを、備えることを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項 3】

表示装置及び入力装置を具備したファクシミリ装置であって、

F A X 送信すべき原稿から F A X データを生成するための読取ジョブ、F A X データを指定されている F A X 送信先に送信するための F A X 送信ジョブ、送信されてきた F A X データを受信して記憶するための F A X 受信ジョブ、F A X 受信ジョブにより受信され記憶された F A X データに基づく印刷を行うための印刷ジョブとを実行可能であると共に、F A X 送信ジョブ及び印刷ジョブのキューイングが可能な F A X 制御手段と、

前記表示装置及び前記入力装置を、ユーザが、前記入力装置を操作することにより、未完了の各ジョブの内容を、前記表示装置に、読取ジョブ、F A X 送信ジョブ、印刷ジョブ、F A X 受信ジョブという順で、1 ジョブずつ表示させることができ、複数の F A X 送信ジョブが存在する場合には、各 F A X 送信ジョブの内容を、各 F A X 送信ジョブの管理開始時刻順とは逆順で表示させることができ、複数の印刷ジョブが存在する場合には、各印刷ジョブの内容を、各印刷ジョブの管理開始時刻順とは逆順で表示させることができる手段として動作させる表示・入力装置制御手段

とを、備えることを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項 4】

前記表示・入力装置制御手段は、前記表示装置及び前記入力装置を、或るジョブの内容が前記表示装置に表示されているときに、前記入力装置を操作することにより、ユーザが、そのジョブの中止指示を出せる手段として動作させる

ことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 のいずれかに記載のファクシミリ装置。

【請求項 5】

表示装置及び入力装置を具備した情報処理装置であって、

複数種類のジョブを並行的に実行可能なジョブ実行手段と、

前記表示装置及び前記入力装置を、ユーザにより前記入力装置に対してボタンを押下す

る操作が行われる度に、前記ジョブ実行手段による実行が完了していない各ジョブの内容が前記表示装置に 1 ジョブずつ順々に表示される手段として動作させる表示・入力装置制御手段

とを、備えることを特徴とする情報処理装置。

【請求項 6】

前記ジョブ実行手段が、

スキャナを利用して原稿のイメージデータを生成する読取ジョブと、FAXデータを指定されているFAX送信先に送信するFAX送信ジョブと、送信されてきたFAXデータを受信して記憶するFAX受信ジョブと、前記読取ジョブにより生成されたイメージデータ及び前記FAX受信ジョブにより受信されたFAXデータに基づく印刷を行う印刷ジョブとを、実行可能な手段であり、

前記表示・入力装置制御手段が、

前記表示装置及び前記入力装置を、ユーザにより前記入力装置に対してボタンを押下する操作が行われる度に、前記ジョブ実行手段による実行が完了していない各ジョブの内容が、読取ジョブ、FAX送信ジョブ、印刷ジョブ、FAX受信ジョブの順に表示される手段として動作させる手段である

ことを特徴とする請求項 5 記載の情報処理装置。

【請求項 7】

前記ジョブ実行手段が、

FAXデータを受信する受信ジョブと、当該受信ジョブとは内容の異なる非受信ジョブとを、実行可能な手段であり、

前記表示・入力装置制御手段が、

前記表示装置及び前記入力装置を、ユーザにより前記入力装置に対してボタンを押下する操作が行われる度に、前記ジョブ実行手段による実行が完了していない各ジョブの内容が、非受信ジョブ、受信ジョブの順に表示される手段として動作させる手段である

ことを特徴とする請求項 5 記載の情報処理装置。

【請求項 8】

前記ジョブ実行手段が、

原稿のコピーを生成するために実行されるコピー関連ジョブと、原稿のコピーを生成することとは異なる目的のために実行されるコピー非関連ジョブとを、実行可能な手段であり、

前記表示・入力装置制御手段が、

前記表示装置及び前記入力装置を、ユーザにより前記入力装置に対してボタンを押下する操作が行われる度に、前記ジョブ実行手段による実行が完了していない各ジョブの内容が、コピー関連ジョブ、コピー非関連ジョブの順に表示される手段として動作させる手段である

ことを特徴とする請求項 5 記載の情報処理装置。

【請求項 9】

前記表示・入力装置制御手段が、

ジョブの表示順を指定可能な手段である

ことを特徴とする請求項 5 記載の情報処理装置。

【書類名】明細書**【発明の名称】ファクシミリ装置及び情報処理装置****【技術分野】****【0001】**

本発明は、複数のジョブを並行的に実行できるファクシミリ装置及び情報処理装置に、関する。

【背景技術】**【0002】**

周知のように、近年のファクシミリ装置の多くは、FAX送信すべき原稿からFAXデータを生成するための読取ジョブ、FAXデータを指定されているFAX送信先に送信するためのFAX送信ジョブ、送信されてきたFAXデータを受信して記憶するためのFAX受信ジョブ、FAX受信ジョブにより受信され記憶されたFAXデータに基づく印刷を行うための印刷ジョブを、並行して実行できる装置であるとともに、FAX送信ジョブ及び印刷ジョブのキューイングが可能な装置となっている。要するに、近年のファクシミリ装置の多くは、未送信のFAXデータが残っていてもFAX原稿の読み取りが可能であり、受信したFAXデータ（未印刷のFAXデータ）が残っていてもFAX受信が可能な装置となっている。

【0003】

そして、そのようなファクシミリ装置（複数のジョブを並行して実行可能なファクシミリ装置）は、通常、その筐体（コンソール部分）に設けられているディスプレイ上に、実行中／実行待機中のジョブの内容に関する簡単な情報（以下、概要情報と表記する）のリストを、印刷ジョブとFAX送信ジョブとについて表示させることが可能な装置であると共に、そのリストから或るジョブの概要情報を選択することにより、概要情報を選択した印刷ジョブ或いはFAX送信ジョブについての、より具体的な内容に関する情報（以下、詳細情報と表記する）をディスプレイ上に表示させることが可能な装置となっている。

【0004】

また、ファクシミリ装置は、或るジョブについての詳細情報を確認したユーザが、他のジョブについての詳細情報を確認したくなった場合には、概要情報のリストを表示させるための操作を行ってから、目的とするジョブについての概要情報を選択する操作を行わなければならない装置ともなっている。

【0005】

また、各種のジョブを実行できる情報処理装置（例えば、デジタル複合機）も、ファクシミリ装置と同様に、詳細情報を表示させるジョブの種類を選択してから、詳細情報を表示させるジョブを選択しなければならない装置となっている。

【0006】

要するに、既存のファクシミリ装置、情報処理装置は、実行中／実行待機中の各ジョブの内容を確認するために、比較的に煩雑な作業を行わなければならない装置となっている。

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0007】**

本発明は、このような現状に鑑みなされたものであり、本発明の課題は、実行中／実行待機中の各ジョブの内容を確認するための作業がより簡単に行えるファクシミリ装置及び情報処理装置を、提供することにある。

【課題を解決するための手段】**【0008】**

上記課題を解決するために、本発明の第1の態様では、表示装置及び入力装置を具備したファクシミリ装置を、FAX送信すべき原稿からFAXデータを生成するための読取ジョブ、FAXデータを指定されているFAX送信先に送信するためのFAX送信ジョブ、送信されてきたFAXデータを受信して記憶するためのFAX受信ジョブ、FAX受信ジ

ジョブにより受信され記憶されたFAXデータに基づく印刷を行うための印刷ジョブとを実行可能なFAX制御手段と、表示装置及び入力装置を、ユーザにより入力装置に対してボタンを押下する操作が行われる度に、FAX制御手段による実行が完了していない各ジョブの内容が表示装置に1ジョブずつ順々に表示される手段として動作させる表示・入力装置制御手段とを、備えたものとして構成しておく。

【0009】

また、本発明の第2の態様では、ファクシミリ装置を、FAX送信すべき原稿からFAXデータを生成するための読取ジョブ、FAXデータを指定されているFAX送信先に送信するためのFAX送信ジョブ、送信されてきたFAXデータを受信して記憶するためのFAX受信ジョブ、FAX受信ジョブにより受信され記憶されたFAXデータに基づく印刷を行うための印刷ジョブとを実行可能であると共に、FAX送信ジョブ及び印刷ジョブのキューイングが可能なFAX制御手段と、表示装置及び入力装置を、ユーザが、入力装置を操作することにより、未完了の各ジョブの内容を、表示装置に、読取ジョブ、FAX送信ジョブという順で、1ジョブずつ表示させることができ、複数のFAX送信ジョブが存在する場合には、各FAX送信ジョブの内容を、各FAX送信ジョブの管理開始時刻順とは逆順で表示させることができ手段として動作させる表示・入力装置制御手段とを、備えたものとして構成しておく。

【0010】

そして、本発明の第3の態様では、ファクシミリ装置を、FAX送信すべき原稿からFAXデータを生成するための読取ジョブ、FAXデータを指定されているFAX送信先に送信するためのFAX送信ジョブ、送信されてきたFAXデータを受信して記憶するためのFAX受信ジョブ、FAX受信ジョブにより受信され記憶されたFAXデータに基づく印刷を行うための印刷ジョブとを実行可能であると共に、FAX送信ジョブ及び印刷ジョブのキューイングが可能なFAX制御手段と、表示装置及び入力装置を、ユーザが、入力装置を操作することにより、未完了の各ジョブの内容を、表示装置に、読取ジョブ、FAX送信ジョブ、印刷ジョブ、FAX受信ジョブという順で、1ジョブずつ表示させることができ、複数のFAX送信ジョブが存在する場合には、各FAX送信ジョブの内容を、各FAX送信ジョブの管理開始時刻順とは逆順で表示させることができ、複数の印刷ジョブが存在する場合には、各印刷ジョブの内容を、各印刷ジョブの管理開始時刻順とは逆順で表示させることができる手段として動作させる表示・入力装置制御手段とを、備えたものとして構成しておく。

【0011】

すなわち、本発明の各態様のファクシミリ装置は、ジョブの概要情報のリストから概要情報を選択する操作を行うことなく、ユーザが、実行中／実行待機中の各ジョブの内容を確認できる構成を有する。従って、本発明の各態様のファクシミリ装置は、ジョブの概要情報のリストから概要情報を選択する操作が必要とされるファクシミリ装置よりも、実行中／実行待機中の各ジョブの内容を確認する作業が行いやすい装置として機能することになる。

【0012】

なお、本発明のファクシミリ装置を実現する際には、ユーザが内容を確認したいジョブについての情報が先に表示されるようにしておくことが望ましいので、本発明の第2、第3の態様の構成を採用しておくことが望ましい。

【0013】

また、本発明の各態様のファクシミリ装置を実現するに際しては、表示・入力装置制御手段として、表示装置及び入力装置を、或るジョブの内容が表示装置に表示されているときに、入力装置を操作することにより、ユーザが、そのジョブの中止指示を出せる手段として動作させる手段を採用しておくことも出来る。

【0014】

そして、本発明の情報処理装置は、表示装置と、入力装置と、複数種類のジョブを並行的に実行可能なジョブ実行手段と、表示装置及び入力装置を、ユーザにより入力装置に対

してボタンを押下する操作が行われる度に、ジョブ実行手段による実行が完了していない各ジョブの内容が表示装置に1ジョブずつ順々に表示される手段として動作させる表示・入力装置制御手段とを、備える。

【0015】

すなわち、本発明の情報処理装置は、その内容の表示対象とするジョブの種類を選択する操作を行うことなく、ユーザが、実行中／実行待機中の各ジョブの内容を確認できる構成を、有する。従って、この本発明の情報処理装置は、その内容の表示対象とするジョブの種類を選択する操作が必要とされる既存の情報処理装置よりも、実行中／実行待機中の各ジョブの内容を確認する作業が行いやすい装置として機能することになる。

【0016】

本発明の情報処理装置を実現するに際しては、ジョブ実行手段として、スキャナを利用して原稿のイメージデータを生成する読取ジョブと、FAXデータを指定されているFAX送信先に送信するFAX送信ジョブと、送信されてきたFAXデータを受信して記憶するFAX受信ジョブと、読取ジョブにより生成されたイメージデータ及びFAX受信ジョブにより受信されたFAXデータに基づく印刷を行う印刷ジョブとを、実行可能な手段を採用し、表示・入力装置制御手段として、表示装置及び入力装置を、ユーザにより入力装置に対してボタンを押下する操作が行われる度に、ジョブ実行手段による実行が完了していない各ジョブの内容が、読取ジョブ、FAX送信ジョブ、印刷ジョブ、FAX受信ジョブの順に表示される手段として動作させる手段を採用することが出来る。

【0017】

また、本発明の情報処理装置を実現する際には、ジョブ実行手段として、FAXデータを受信する受信ジョブと、当該受信ジョブとは内容の異なる非受信ジョブとを、実行可能な手段を採用し、表示・入力装置制御手段として、表示装置及び入力装置を、ユーザにより入力装置に対してボタンを押下する操作が行われる度に、ジョブ実行手段による実行が完了していない各ジョブの内容が、非受信ジョブ、受信ジョブの順に表示される手段として動作させる手段を採用することも出来る。

【0018】

また、本発明の情報処理装置を実現する際には、ジョブ実行手段として、原稿のコピーを生成するために実行されるコピー関連ジョブと、原稿のコピーを生成することとは異なる目的のために実行されるコピー非関連ジョブとを、実行可能な手段を採用し、表示・入力装置制御手段として、表示装置及び入力装置を、ユーザにより入力装置に対してボタンを押下する操作が行われる度に、ジョブ実行手段による実行が完了していない各ジョブの内容が、コピー関連ジョブ、コピー非関連ジョブの順に表示される手段として動作させる手段を採用しても良い。

【0019】

また、本発明の情報処理装置を実現する際には、表示・入力装置制御手段として、ジョブの表示順を指定可能な手段を採用しても良い。

【発明を実施するための最良の形態】

【0020】

以下、本発明を実施するための最良の形態を、図面を参照して詳細に説明する。

【0021】

《第1実施形態》

まず、図1～図3を用いて、本発明の第1実施形態に係るファクシミリ装置10のハードウェア構成を、説明する。

【0022】

図1に示してあるように、本実施形態に係るファクシミリ装置10は、制御ユニット11とスキャナ12とプリンタ13とを組み合わせた装置である。また、本実施形態に係るファクシミリ装置10は、図2に示してあるように、一般的なデジタル複合機／コピー機と同様の外観を有する装置となっている。

【0023】

このファクシミリ装置 10 に用いられているプリンタ 13 は、コンピュータの周辺機器として使用可能なプリンタに、ファクシミリ装置 10 を構成するための(制御ユニット 11 とプリンタ 13 とを接続するための)拡張ボードが装着された機器である。スキャナ 12 は、コンピュータの周辺機器として使用可能なスキャナに、ファクシミリ装置 10 を構成するための(制御ユニット 11 とスキャナ 12 とを接続するための)拡張ボードが装着された機器である。このスキャナ 12 は、両面原稿の読み取りが可能な機器(原稿を裏返せる ADF(Automatic Document Feeder)を備えた機器)となっている。

【0024】

制御ユニット 11 は、スキャナ 12 とプリンタ 13 と自ユニットを、ファクシミリの送受信が可能な装置として動作させるユニットである。この制御ユニット 11 は、図 1 に示してあるように、CPU 21, ROM 22, RAM 23, HDD 24, 通信制御回路 25, 画像処理回路 26, LCD 制御回路 27, 入力インタフェース回路(入力 I/F) 28, ネットワークインタフェース回路(NW-I/F) 29, モデム 30, タッチスクリーン 31, スイッチ部 32 等により構成されている。

【0025】

制御ユニット 11 を構成しているタッチスクリーン 31 は、液晶ディスプレイ(LCD) 35 上に透明な接触位置センサ 36 を重ねた素子である。スイッチ部 32 は、図 3 に示してあるように、制御ユニット 11 の筐体上に設けられたスタートボタン 32s, ストップボタン 32c, テンキー等と、それらの制御回路(図示せず)とからなるユニットである。

【0026】

CPU 21 は、ファクシミリ装置 10 の各部(制御ユニット 11 内の各部、スキャナ 12 及びプリンタ 13)を統合的に制御する制御回路である。ROM 22 は、CPU 21 の動作手順を規定するプログラムや CPU 21 (プログラム)が利用するデータが記録されている読み出し専用のメモリである。RAM 23 は、ROM 22 に記録されているプログラムが読み出されるメモリであると共に、CPU 21 (プログラム)の作業領域として用いられるメモリである。通信制御回路 25 は、CPU 21 が、スキャナ 12 或いはプリンタ 13 との間で情報交換(コマンドの送信、画像データの受信、印刷データの送信)を行うために使用する回路である。画像処理回路 26 は、スキャナ 12 によって生成された画像データ(本実施形態では、多値画像データ)に対して各種の画像処理を施すための回路である。

【0027】

LCD 制御回路 27 は、タッチスクリーン 31 (LCD 35)に、CPU 21 から指示された内容の画像(画面)を表示させる回路である。入力インタフェース回路 28 は、ユーザ(ファクシミリ装置 10 の操作者)がテンキー部 32 或いはタッチスクリーン 31 (接触位置センサ 36)に対して行った操作内容を、CPU 21 に通知する回路である。ネットワークインタフェース回路 29 は、制御ユニット 11 を LAN に接続するための回路であり、モデム 30 は、制御ユニット 11 を電話回線網に接続するための回路である。

【0028】

HDD 24 は、一時ファイル(プリンタに供給するデータ、FAX 送信するデータ、受信した FAX データ(印刷してないもの)、他コンピュータに送信するデジタル文書のファイル)、電源が落とされても保持しておくことが必要な各種の情報(登録されている FAX 番号や IP アドレス、実行中/実行待機中の各ジョブに関する情報)を記憶しておくために、制御ユニット 11 に搭載されている補助記憶装置(ハードディスク装置)である。

【0029】

以下、本ファクシミリ装置 10 の動作(制御ユニット 11 の動作)を、説明する。なお、本実施形態に係る制御ユニット 11 は、スキャナ 12, プリンタ 13 及び自ユニットを、コピー機として動作させることや、スキャナ 12 及び自ユニットを、デジタル文書作成装置(セットされた原稿からデジタル文書[当該原稿のイメージデータファイル]を作成して他のコンピュータへ TCP/IP 送信する機能を有する装置)として動作させることも可能なユニットなのであるが、以下では、本ファクシミリ装置 10 がファクシミリの送受信が可能な装置として動作している場合における制御ユニット 11 の動作のみを、説明

することにする。

【0030】

まず、制御ユニット11の概要説明を行う。

【0031】

制御ユニット11は、読取ジョブと、FAX送信ジョブと、FAX受信ジョブと、印刷ジョブとを、実行可能なユニットとなっている。ここで、読取ジョブとは、FAX送信を行う原稿をスキャナ12を利用してイメージデータ化し、そのイメージデータに対して画像処理等を行うことによりFAXデータ（FAX送信に実際に用いるデータ）を生成するジョブのことである。また、FAX送信ジョブとは、読取ジョブによって用意されたFAXデータを実際にFAX送信するジョブのことであり、FAX受信ジョブとは、送信されてきたFAXデータを受信するジョブのことである。そして、印刷ジョブとは、FAX受信ジョブにて受信されたFAXデータに応じた内容の印刷物をプリンタ13に印刷させるジョブのことである。

【0032】

また、制御ユニット11は、FAX送信ジョブ及び印刷ジョブについては、実行待機中のジョブが存在し得る（いわゆるキューイングが行える）ユニットであると共に、読取ジョブと、印刷ジョブと、FAX送信ジョブ或いはFAX受信ジョブとを並行して実行可能なユニット（FAX送信ジョブとFAX受信ジョブとは同時に実行できないユニット）となっている。さらに、制御ユニット11は、通常は、図4に示した構成のFAX用基本画面をタッチスクリーン31上に表示しているユニット（より正確には、読取ジョブを実行していない場合には、ユーザが、図4に示したFAX用基本画面をタッチスクリーン31上に表示させることが出来るユニット；詳細は後述）であると共に、このFAX用基本画面を利用したFAX送信先等の設定作業が行われた後にスタートボタン32s（図3参照）が押下されたときに、読取ジョブを開始するユニットとなっている。

【0033】

そして、本制御ユニット11は、実行中／実行待機中の各ジョブの内容をユーザに提示する際の動作内容、ジョブの中止（削除）指示を受け付ける際の動作内容に特徴があるユニットとなっている。

【0034】

以上のことを前提として、以下、本実施形態に係るファクシミリ装置10（制御ユニット11）の動作を、更に具体的に説明する。

【0035】

制御ユニット11は、実行中／実行待機中の各ジョブの内容をユーザに提示するための処理であるジョブ情報表示処理を、FAX用基本画面（図4）上の“通信管理”ボタン41の押下で始まる所定の操作（“通信管理”ボタン41を押下し、その結果としてタッチスクリーン31上に表示される画面上の特定のボタンを押下する操作；以下、ジョブ情報表示処理開始指示操作と表記する）がなされた時と、読取ジョブの実行時とに、実行するユニットとして構成されている。なお、このジョブ情報表示処理は、ジョブの中止指示を受け付けられる処理ともなっている。

【0036】

さらに、制御ユニット11は、ジョブ情報表示処理を実行していない状態でストップボタン32cが押下された場合には、ジョブの中止指示を受け付けるための処理であるジョブ中止指示受付処理を実行するユニットとして構成されている。

【0037】

まず、ジョブ情報表示処理時の制御ユニット11の動作を説明する。

【0038】

図5に示したように、ジョブ情報表示処理を開始した制御ユニット11は、注目順位が“1”（第1順位）であることを記憶（ステップS101）した後、ジョブ順位が注目順位のジョブに関するFAXジョブ情報表示画面を、タッチスクリーン31上に表示する（ステップS102）。

【0039】

ここで、ジョブ順位とは、実行中／実行待機中の各ジョブに対して、読取ジョブ、FAX送信ジョブ、印刷ジョブ、FAX受信ジョブという順に、複数のFAX送信ジョブ間では、ジョブの管理開始順（ジョブが開始／キューイングされた時刻の順）とは逆順となるように、複数の印刷ジョブ間では、ジョブの管理開始順と同一順となるように、付けられる仮想的な順位のことである。

【0040】

また、FAXジョブ情報表示画面とは、図6(A)～(D)、図7(A)～(D)に示したような画面のことである。なお、図7(A)～(D)に示したFAXジョブ情報表示画面は、読取ジョブが開始された結果として開始されたジョブ情報表示処理により、タッチスクリーン31上に表示されるものであり、図7(A)に示したFAXジョブ情報表示画面上の領域51pは、読み取りが完了したページ数が示される領域である。また、図6(A)～(D)に示したFAXジョブ情報表示画面は、ジョブ情報表示処理開始指示操作がなされた結果として開始されたジョブ情報表示処理や、読取ジョブが開始された結果として開始されたジョブ情報表示処理（ただし、読取ジョブの終了後のもの）により、タッチスクリーン31上に表示されるものである。

【0041】

これらの図から推定されるように、FAXジョブ情報表示画面は、ジョブ順位が注目順位と一致しているジョブ（以下、注目順位ジョブと表記する）の内容が示される情報表示領域51、左カーソルボタン52L、右カーソルボタン52R、注目順位／ジョブ総数（“1／4”、“2／4”等）が示されるジョブ順位・総数表示領域53、“戻る”ボタン54等を有する画面となっている。また、FAXジョブ情報表示画面は、注目順位が“1”である場合には、左カーソルボタン52Lが無効となる（薄いグレーで表示され、その押下時に何も行われなくなる）画面（図6(A)、図7(A)）であると共に、注目順位がジョブ総数と一致している場合には、右カーソルボタン52Rが無効となる画面（図6(D)、図7(D)）となっている。さらに、FAXジョブ情報表示画面は、読取ジョブが行われていない場合には、“戻る”ボタン54が有効となり（図6(A)～(D)）、読取ジョブが行われている場合には、“戻る”ボタン54が無効となる（図7(A)～(D)）画面となっている。

【0042】

このようなFAXジョブ情報表示画面をタッチスクリーン31上に表示した制御ユニット11は、タッチスクリーン31上に表示しているFAXジョブ情報表示画面のボタン（有効なもの）が押下されることと、ストップボタン32cが押下されることと、実行中のジョブが終了することとを、監視する状態（図5：ステップS103）となる。

【0043】

そして、制御ユニット11は、右カーソルボタン52Rが押下された場合（ステップS103；右カーソル）には、注目順位を次順位に変更する（注目順位に“1”を加算する）処理（ステップS104）を行ってから、再び、ステップS102以降の処理を開始する。また、制御ユニット11は、左カーソルボタン52Lが押下された場合（ステップS103；左カーソル）には、注目順位を前順位に変更する（注目順位から“1”を減ずる）処理（ステップS105）を行ってから、再び、ステップS102以降の処理を開始する。

【0044】

すなわち、制御ユニット11は、図6(A)～図6(C)、図7(A)～図7(C)に示したFAXジョブ情報表示画面上の右カーソルボタン52Rが押下された場合には、それぞれ、図6(B)～図6(D)、図7(B)～図7(D)に示したものに、タッチスクリーン31上のFAXジョブ情報表示画面を変更し、図6(B)～図6(D)、図7(B)～図7(D)に示したFAXジョブ情報表示画面上の左カーソルボタン52Lが押下された場合には、それぞれ、図6(A)～(C)、図7(A)～図7(C)に示したものに、タッチスクリーン31上のFAXジョブ情報表示画面を変更する。

【0045】

一方、ストップボタン32cが押下された場合(ステップS103;ストップ)、制御ユニット11は、注目順位ジョブ(ジョブ順位が注目順位と一致しているジョブ)に関するジョブ削除確認画面をタッチスクリーン31上に表示する(ステップS106)。

【0046】

このステップS106で表示されるジョブ削除確認画面は、図8(A)に例示したように、“中止する”ボタン61と“中止しない”ボタン62とを備える画面であると共に、中止対象となっているジョブが何であるかが示される画面となっている。なお、この図8(A)に示したジョブ削除確認画面は、図6(A)に示したFAXジョブ情報表示画面がタッチスクリーン31上に表示されている状態でストップボタン32sが押下された場合にタッチスクリーン31上に表示されるものである。

【0047】

このようなジョブ削除確認画面をタッチスクリーン31上に表示した制御ユニット11は、“中止する”ボタン61、或いは、“中止しない”ボタン62が押下されるのを待機する状態(ステップS107)となり、“中止しない”ボタン62が押下された場合(ステップS107;中止する)には、ステップS102以降の処理を開始する。すなわち、制御ユニット11は、タッチスクリーン31上に、ストップボタン32c押下時に表示していたものと同じFAXジョブ情報表示画面を表示した後、ユーザによるボタン押下、実行中のジョブの完了といったイベントの発生を待機する状態となる。

【0048】

一方、ジョブ削除確認画面(図8(A))上の“中止する”ボタン61が押下された場合(ステップS107;中止する)、制御ユニット11は、ジョブ削除中画面をタッチスクリーン31上に表示した状態で注目順位ジョブを削除する処理(ステップS108)を行う。ここで、ジョブ削除中画面とは、指定されたジョブを中止していることをユーザに提示するための画面のことである。例えば、図8(A)に示したジョブ削除確認画面上の“中止する”ボタン61が押下された場合、タッチスクリーン31上には、このジョブ削除中画面として、図8(B)に示した画面が、表示される。

【0049】

ステップS108(図5)の処理を終えた制御ユニット11は、未完了ジョブが残っているか否かを判断(ステップS109)し、未完了ジョブが残っていた場合(ステップS109;YES)には、その時点における注目順位が、その時点におけるジョブ順位の最終順位(=ジョブ削除後の未完了ジョブの総数)を超えているか否かを判断する(ステップS110)。そして、制御ユニット11は、注目順位が最終順位を超えていなかった場合(ステップS110;NO)には、注目順位を変更することなく、ステップS102以降の処理を開始し、注目順位が最終順位を超えていた場合(ステップS110;YES)には、注目順位を最終順位に変更(ステップS111)してから、ステップS102以降の処理を開始する。

【0050】

すなわち、制御ユニット11は、図8(B)に示したジョブ削除中画面をタッチスクリーン31上に表示していた場合には、注目順位を“1”に維持したままで、ステップS102の処理を実行することにより、図8(C)に示したFAXジョブ情報表示画面(図6(B)に示したFAXジョブ情報表示画面に相当するものであるが、実行中のジョブ/待機待ち状態にあるジョブの総数が“1”減少しているため、ジョブ順位・総数表示領域53内に“1/3”が表示されているFAXジョブ情報表示画面)をタッチスクリーン31上に表示する。

【0051】

また、制御ユニット11は、図6(D)に示したFAXジョブ情報表示画面がタッチスクリーン31上に表示されている状態でストップボタン32cが押下され、実行待機中の印刷ジョブが実際に中止(削除)された場合には、注目順位を“3”に変更した後にステップS102の処理を実行する。すなわち、この場合、制御ユニット11は、図6(C)に示したFAXジョブ情報表示画面相当のFAXジョブ情報表示画面(ジョブ順位・総数表示

領域53内に“3/3”が示されているもの)をタッチスクリーン31上に表示する。

【0052】

一方、ステップS108(図5)にてジョブを中止(削除)する処理を行った結果、未完了ジョブがなくなった場合(ステップS109;NO)、制御ユニット11は、このジョブ情報表示処理を終了する。また、制御ユニット11は、FAXジョブ情報表示画面上の“戻る”ボタン54(有効なもの)が押下された場合(ステップS103;戻る)にも、このジョブ情報表示処理を終了する。そして、ジョブ情報表示処理を終了した制御ユニット11は、ジョブ情報表示処理の開始直前に表示していたものと同じ種類の画面を表示している状態となる。

【0053】

また、実行中のジョブが終了した場合(ステップS103;ジョブ完了)、制御ユニット11は、既に説明したステップS109以降の処理を行う。すなわち、未完了ジョブがなくなった場合には、このジョブ情報表示処理を終了し、未完了ジョブがあった場合には、必要に応じて注目順位を変更する処理を行った後に、タッチスクリーン31上のFAXジョブ情報表示画面を、現状に応じたもの(ジョブ順位・総数表示領域53の内容が変わったもの、“戻る”ボタン54の表示形態が変わったもの等)に、変更する。

【0054】

次に、図9及び図10に示したジョブ中止指示受付処理の流れ図を用いて、ジョブ中止指示受付処理時の制御ユニット11の動作を説明する。

【0055】

既に説明したように、このジョブ中止指示受付処理は、ジョブ情報表示処理が行われていない状態(換言すれば、FAXジョブ情報表示画面がタッチスクリーン31上に表示されていない状態)でストップボタン32cが押下された場合に制御ユニット11が実行する処理であるが、ジョブ中止指示受付処理の流れ図(図9及び図10)とFAXジョブ情報表示処理の流れ図(図5)を比較すれば明らかなように、このジョブ中止指示受付処理は、FAXジョブ情報表示処理とその内容が極めて類似した処理となっている。

【0056】

具体的には、このジョブ中止指示受付処理のステップS201、ステップS202～S207(図9)は、それぞれ、ジョブ情報表示処理(図5)のステップS101、ステップS106～S111と同内容の処理が行われるステップとなっている。また、ジョブ中止指示受付処理のステップS212～S221(図10)は、それぞれ、ジョブ情報表示処理(図5)のステップS102～S111と同内容の処理が行われるステップとなっている。

【0057】

すなわち、FAXジョブ情報表示画面がタッチスクリーン31上に表示されていない状態でストップボタン32cが押下されたことにより、このジョブ中止指示受付処理を開始した制御ユニット11は、まず、ジョブ順位が第1順位となっているジョブに関するジョブ削除確認画面(図8(A)参照)をタッチスクリーン31上に表示する。そして、ジョブ削除確認画面の表示を行った制御ユニット11は、FAXジョブ情報表示処理のステップS107移行の処理と全く同内容の処理を開始する。

【0058】

最後に、ジョブを削除するしかない(ジョブを削除するという対処しか行えない)エラーが発生した場合における制御ユニット11の動作を、説明しておくことにする。

【0059】

制御ユニット11は、ジョブを中止(削除)するしかないエラーが発生した場合、ジョブを中止するか否かをユーザに問い合わせることなく、ジョブを中止(削除)するユニットとなっている。ただし、制御ユニット11は、ユーザに何らかの作業を行わせなければならないエラーについては、当該作業が完了したことをユーザに確認してから、ジョブを中止(削除)するユニットとなっている。具体的には、スキャナとの間の通信エラーが発生した場合には、図11(A)に示したような画面を表示してから、図11(B)に示したよ

うな画面をタッチスクリーン 31 上に表示してジョブを中止（削除）するユニットとなっている。

【0060】

以上、詳細に説明したように、この第1実施形態に係る制御ユニット 11 は、FAX ジョブ情報表示処理（図 5）が行われているとき、ジョブの概要情報のリストから概要情報を選択する操作を行うことなく、ユーザが、実行中／実行待機中の各ジョブの内容を確認できる状態となる構成を、有する。従って、本発明の各態様のファクシミリ装置は、ジョブの概要情報のリストから概要情報を選択する操作が必要とされるファクシミリ装置よりも、実行中／実行待機中の各ジョブの内容を確認する作業が行いやすい装置として機能することになる。しかも、FAX ジョブ情報表示処理は、ユーザに、（読取ジョブ、）FAX 送信ジョブ、印刷ジョブ、FAX 受信ジョブという順で、1 ジョブずつその内容を提示する処理であると共に、複数の FAX 送信ジョブが存在する場合には、各 FAX 送信ジョブの内容を、各 FAX 送信ジョブの管理開始時刻順とは逆順で提示し、複数の印刷ジョブが存在する場合には、各印刷ジョブの内容を、各印刷ジョブの管理開始時刻順とは逆順で提示する処理となっている。

【0061】

そして、FAX 受信ジョブ、印刷ジョブは、内容を確認したいケースが減多に無いジョブである。また、FAX 送信ジョブは、受付順（管理開始時刻順）が遅いものを、素早く（単純な操作で）確認できる方が好ましいジョブである。何故ならば、ユーザが作業内容を確認したいと思うタイミングが、作業直後であることが多いからである。

【0062】

従って、本ファクシミリ装置 10 は、内容の確認が不必要なジョブに関する情報を見ないで済む装置ともなっていることになる。

【0063】

《第2実施形態》

まず、図 12 乃至図 14 を用いて、本発明の第2実施形態に係る情報処理装置 110 の概要を、説明する。

【0064】

図 12 に示してあるように、本実施形態に係る情報処理装置 110 は、制御ユニット 11 とスキャナ 112 とプリンタ 113 とが組み合わされた装置である。

【0065】

この情報処理装置 110 に用いられているスキャナ 112、プリンタ 113 は、それぞれ、ファクシミリ装置 10（図 1 参照）に用いられているスキャナ 12、プリンタ 13 と同じものである。

【0066】

制御ユニット 111 は、CPU 121、ROM 122、RAM 123、HDD 124、通信制御回路 125、画像処理回路 126、LCD 制御回路 127、入力インタフェース回路（入力 I/F）128、ネットワークインタフェース回路（NW-I/F）129、モデム 130、タッチスクリーン 131、スイッチ部 132 等により構成されたユニットである。

【0067】

この制御ユニット 111 を構成している各デバイスは、制御ユニット 11 を構成している同名のデバイスと本質的には同じものである。例えば、スイッチ部 132 は、図 13 に示したように、制御ユニット 111 の筐体上に設けられているスタートボタン 132s、ストップボタン 132c 等により構成されたユニットとなっている。

【0068】

ただし、本実施形態に係る制御ユニット 111 の ROM 122 には、第1実施形態に係る制御ユニット 11 の ROM 22 に記憶されているものとは異なるプログラムが、記憶されている。そして、当該プログラムは、制御ユニット 111 を、“読取（コピー）”ジョブ、“印刷（コピー）”ジョブ、“読取（ネットワークコピー）”ジョブ、“印刷（ネットワー

クコピー)”ジョブ、“読取(スキャンtoファイル)”ジョブ、“読取(スキャンtoEメール)”ジョブ、“読取(PCドライバ)”ジョブ、“印刷(PCドライバ)”ジョブ、“印刷(ファイルtoプリント)”ジョブ、“読取(FAX)”ジョブ、“送信(FAX)”ジョブ、“受信(FAX)”ジョブ、“印刷(FAX)”ジョブを実行可能なユニットとして機能させるものとなっている。

【0069】

以下、各ジョブの概要を、説明する。なお、以下の説明では、その名称に“読取”が含まれているジョブのことを、読取ジョブと表記する。また、スキャナ111に生成させた原稿のイメージデータのことを、スキャンデータと表示する。

【0070】

“読取(PCドライバ)”ジョブは、スキャナ112をネットワークスキャナとして機能させる(ネットワーク接続されているコンピュータにスキャナ112を利用させる)ジョブである。この“読取(PCドライバ)”ジョブは、ネットワーク接続されているコンピュータから所定の指示が送信されてきたときに発生するジョブとなっている。

【0071】

“読取(PCドライバ)”ジョブを除く各読取ジョブ(“読取(コピー)”ジョブ、“読取(ネットワークコピー)”ジョブ等)は、その名称に示されている目的(コピー、ネットワークコピー等)のために使用するスキャンデータをスキャナ111に生成させるジョブである。また、“読取(PCドライバ)”ジョブを除く各読取ジョブは、いずれも、スタートボタン132cが押下されたときに発生する(制御ユニット111が実行すべきものとして認識する)ジョブとなっている。

【0072】

具体的には、“読取(FAX)”ジョブは、図14(A)に示したFAX用基本画面がタッチスクリーン131上に表示されている状態でスタートボタン132cが押下されたときに、発生するジョブとなっている。

【0073】

“読取(コピー)”ジョブは、図14(B)に示したコピー用基本画面がタッチスクリーン131上に表示されており、かつ、コピー結果の出力先機器としてプリンタ113が選択されている状態で、スタートボタン132sが押下されたときに、発生するジョブとなっている。また、“読取(ネットワークコピー)”ジョブは、図14(B)に示したコピー用基本画面がタッチスクリーン131上に表示されており、かつ、コピー結果の出力先機器として、自装置(情報処理装置110/制御ユニット111)とLAN接続されている他の情報処理装置110のプリンタ113が選択されている状態で、スタートボタン132sが押下されたときに、発生するジョブとなっている。なお、制御ユニット111は、このコピー用基本画面上の“用紙選択”ボタンを押下することにより、コピー結果の出力先機器の選択(指定)が行えるユニットとして、構成されている。

【0074】

また、“読取(スキャンtoファイル)”ジョブは、スキャンデータの送信先の指定(コンピュータ及びフォルダの指定或いはEメールアドレスの指定)が行えるスキャン用基本画面がタッチスクリーン131上に表示されており、かつ、スキャンデータの送信先として、自装置(情報処理装置110/制御ユニット111)とLAN接続されている或るコンピュータ内のフォルダが指定されている状態でスタートボタン132sが押下されたときに、発生するジョブとなっている。そして、“読取(スキャンtoEメール)”ジョブは、スキャン用基本画面がタッチスクリーン131上に表示されており、かつ、スキャンデータの送信先として或るメールアドレスが指定されている状態でスタートボタン132sが押下されたときに、発生するジョブとなっている。

【0075】

なお、図示は省略するが、“読取(スキャンtoファイル)”ジョブの等実行指示を出すためのスキャン用基本画面も、FAX用基本画面、コピー用基本画面(図14参照)と同様に、他の基本画面を表示させるためのモード切替ボタン141と、ジョブ情報表示処理(

詳細は後述)を開始させるための“通信管理”ボタン142とを備えた画面となっている。

【0076】

また、制御ユニット11が実行可能な“印刷(コピー)”ジョブは、“読取(コピー)”ジョブが終了した際に発生するジョブである。この“印刷(コピー)”ジョブが発生すると、制御ユニット111は、プリンタ113が使用可能な状態であった場合(実行待機中の印刷ジョブが存在せず、かつ、プリンタ113が使用されていない場合)には、“読取(コピー)”ジョブにて生成されたイメージデータに応じた内容の印刷物をプリンタ113に生成させるための処理を開始する。また、プリンタ113が使用可能な状態ではなかった場合、制御ユニット111は、その“印刷(コピー)”ジョブを、実行待機中の他の各印刷ジョブの終了後に実行すべきものとして記憶する(“印刷(コピー)”ジョブのキューイングを行う)。

【0077】

“印刷(ネットワークコピー)”ジョブは、自装置(制御ユニット111)とLAN接続されている他の情報処理装置110にて“読取(ネットワークコピー)”ジョブが終了した際(他の情報処理装置110からスキャンデータが送信されてきた際)に、発生するジョブである。この“印刷(ネットワークコピー)”ジョブが発生すると、制御ユニット111は、プリンタ113が使用可能な状態であった場合には、受信したイメージデータに応じた内容の印刷物をプリンタ113に生成させるための処理を開始する。一方、プリンタ113が使用可能な状態ではなかった場合、制御ユニット111は、その“印刷(ネットワークコピー)”ジョブを、実行待機中の他の各印刷ジョブの終了後に実行すべきものとして記憶する。

【0078】

“印刷(PCドライバ)”ジョブは、自装置とLAN接続されているコンピュータから送信されてきた印刷データに応じた内容の印刷物をプリンタ113に生成させるジョブである。また、“印刷(ファイルtoプリント)”ジョブは、ネットワーク接続されているコンピュータから与えられたコンピュータ名及びファイル名で特定されるファイルに基づく印刷をプリンタ113に行わせるジョブである。これらのジョブも、プリンタ113が使用可能な状態であった場合には、即座に開始され、プリンタ113が使用可能な状態ではなかった場合は、キューイングされるジョブとなっている。

【0079】

“送信(FAX)”ジョブは、“読取(FAX)”ジョブによって用意されたスキャンデータを実際にFAX送信するジョブである。この“送信(FAX)”ジョブは、“読取(FAX)”ジョブの完了時に発生するジョブであると共に、その発生時に、モデム130が利用できない状態(通常、モデム130が、他の“送信(FAX)”ジョブ、或いは、“受信(FAX)”ジョブに利用されている状態)であった場合には、キューイングされるジョブとなっている。

“受信(FAX)”ジョブは、自装置に対して送信されてきたFAXデータを受信するジョブであり、“印刷(FAX)”ジョブは、“受信(FAX)”ジョブにより受信されたFAXデータに応じた内容の印刷物をプリンタ113に印刷させるジョブである。この“印刷(FAX)”ジョブは、“受信(FAX)”ジョブの完了時に発生するジョブと共に、その発生時に、モデム130が利用できない状態であった場合には、キューイングされるジョブとなっている。

【0080】

以上のことを前提に、以下、本実施形態に係る情報処理装置110の構成、動作を、さらに、具体的に説明する。なお、以下の説明では、制御ユニット111が実行可能な、その名称に“印刷”が含まれている各ジョブのことを、印刷ジョブと表記する。

【0081】

本情報処理装置110(制御ユニット111)は、制御ユニット111内のHDD12

2に、ジョブ情報表示順規定ファイルが記憶されている状態で動作する装置として、構成されている。

【0082】

このジョブ情報表示順規定ファイルは、図15～図18に模式的に示したように、1種以上の印刷ジョブの集合（以下、印刷ジョブグループと表記する）、全種類の読取ジョブの集合（以下、読取ジョブグループと表記する）、“送信（FAX）”ジョブ、“受信（FAX）”ジョブのそれぞれについて、数値情報である表示ランクを記憶可能な構成（形式）のファイルであると共に、ジョブ情報表示順規定ファイルは、各印刷ジョブグループ、“受信（FAX）”ジョブについては、“1”或いは“0”のグループ内表示順指定値を記憶可能な構成（形式）のファイルとなっている。

【0083】

そして、本情報処理装置110の制御ユニット111は、このジョブ情報表示順規定ファイルを以下のように利用するように構成された（プログラムされた）ユニットとなっている。なお、詳細説明は省略するが、実際の制御ユニット111は、図15に示した内容のジョブ情報表示順規定ファイルと、図15～図18に示した内容の4個の雛形ファイルとが、HDD122に記憶されている状態で製造（出荷される）ユニットであると共に、制御ユニット111とネットワーク接続されたコンピュータを操作することにより、任意の雛形ファイルをジョブ情報表示順規定ファイルとする（雛形ファイルのコピーをジョブ情報表示順規定ファイルとして記憶する）ことや、ジョブ情報表示順規定ファイルの内容を変更することが出来るように構成されたユニットともなっている。

【0084】

制御ユニット111は、電源が投入された際（及び、ジョブ情報表示順規定ファイルが変更された際）には、HDD122に記憶されているジョブ情報表示順規定ファイルの内容をRAM上に読み出す。以下、この、RAM上に読み出されたジョブ情報表示順規定ファイルの内容のことを、ジョブ情報表示順規定情報と表記する。

【0085】

そして、制御ユニット111は、FAX用基本画面（図14（A））、コピー用基本画面（図14（B））、スキャン用基本画面上の“通信管理”ボタン142の押下で始まる所定の操作（以下、ジョブ情報表示処理開始指示操作と表記する）がなされた場合には、図19に示した手順のジョブ情報表示処理を、開始する。また、制御ユニット111は、読取ジョブが発生した場合には、発生した読取ジョブを開始すると共に、このジョブ情報表示処理を、開始する。

【0086】

すなわち、ジョブ情報表示処理開始指示操作がなされるか、読取ジョブが発生した場合、制御ユニット111は、まず、注目順位が“1”（第1順位）であることを記憶（ステップS501）した後、ジョブ情報表示順規定情報にて規定されるジョブ順位が注目順位と一致しているジョブに関するジョブ情報表示画面を、タッチスクリーン31上に表示する（ステップS502）。

【0087】

ここで、ジョブ情報表示順規定情報にて規定されるジョブ順位（以下、単に、ジョブ順位と表記する）とは、実行中／実行待機中の各ジョブに、ジョブ情報表示順規定情報内の表示ランクの昇順に付けられる順位のことである。このジョブ順位は、同一の印刷ジョブグループに属する複数個の印刷ジョブ、複数個の“送信（FAX）”ジョブについては、対応するグループ内表示順指定値に応じた順（グループ内表示順指定値が“0”である場合には、ジョブの発生時刻順；グループ内表示順指定値が“1”である場合には、ジョブの発生時刻の逆順）で付けられる順位となっている。

【0088】

また、ジョブ情報表示画面とは、図20（A）～（D）に示したような画面のことである。なお、図20（A）に示したジョブ情報表示画面は、ジョブ順位が第1位のジョブが“読取（コピー）”ジョブであった場合に表示されるものである。換言すれば、このジョブ情報

表示画面は、“読取（コピー）”ジョブが発生した結果としてジョブ情報表示処理が開始された場合（この場合、“読取（コピー）”ジョブが、ジョブ順位が第1位のジョブとなる）に表示されるものとなっている。

【0089】

また、図20(B)に示したジョブ情報表示画面は、ジョブ順位が第1位のジョブが“読取（スキャンtoEメール）”ジョブであった場合（“読取（スキャンtoEメール）”ジョブが発生した結果として、ジョブ情報表示処理が開始された場合）に表示されるものである。そして、図20(C)、図20(D)に示したジョブ情報表示画面は、ジョブ順位が第1位のジョブが、それぞれ、“印刷（コピー）”ジョブ、“印刷（PCドライバ）”ジョブであった場合に表示されるものである。

【0090】

これらの図から推定されるように、ジョブ情報表示画面は、ジョブ順位が注目順位と一致しているジョブ（以下、注目順位ジョブと表記する）の内容が示される情報表示領域151、左カーソルボタン152L、右カーソルボタン152R、注目順位／ジョブ総数（“1／4”、“2／4”等）が示されるジョブ順位・総数表示領域153、“戻る”ボタン154等を備えた画面となっている。また、ジョブ情報表示画面は、注目順位が“1”である場合には、左カーソルボタン152Lが無効となる（薄いグレーで表示され、その押下時に何も行われなくなる）画面となっている。また、図示は省略してあるが、ジョブ情報表示画面は、注目順位がジョブ総数と一致している場合には、右カーソルボタン152Rが無効となる画面となっている。さらに、読取ジョブに関するジョブ情報表示画面（図20(A)、図20(B)参照）は、読み取り（イメージデータ化）が完了したページ数が示される領域151pと、無効な“戻る”ボタン154とを備えた画面となっている。

【0091】

このようなジョブ情報表示画面をタッチスクリーン131上に表示した制御ユニット111は、タッチスクリーン131上に表示しているジョブ情報表示画面のボタン（有効なもの）の押下、ストップボタン132cの押下、実行中のジョブの終了を、監視している状態（図20：ステップS503）となる。

【0092】

そして、制御ユニット111は、右カーソルボタン152Rが押下された場合（ステップS503；右カーソル）には、注目順位を次順位に変更する（注目順位に“1”を加算する）処理（ステップS504）を行ってから、再び、ステップS502以降の処理を開始する。また、制御ユニット111は、左カーソルボタン152Lが押下された場合（ステップS503；左カーソル）には、注目順位を前順位に変更する（注目順位から“1”を減ずる）処理（ステップS505）を行ってから、再び、ステップS502以降の処理を開始する。

【0093】

一方、ストップボタン132cが押下された場合（ステップS503；ストップ）、制御ユニット111は、注目順位ジョブ（ジョブ順位が注目順位と一致しているジョブ）に関するジョブ削除確認画面をタッチスクリーン131上に表示する（ステップS506）。このステップS506で表示されるジョブ削除確認画面は、第1実施形態に係る制御ユニット111が表示するジョブ削除確認画面（図8参照）と同様に、“中止する”ボタンと、“中止しない”ボタンと、中止対象となっているジョブがどのジョブであるかを表す情報とが示される画面である。

【0094】

次いで、制御ユニット111は、そのジョブ削除確認画面上の“中止する”ボタン、或いは、“中止しない”ボタンが押下されるのを待機する状態（ステップS507）となる。そして、制御ユニット111は、“中止しない”ボタン62が押下された場合（ステップS507；中止する）には、ステップS502以降の処理を開始する。すなわち、この場合、制御ユニット111は、タッチスクリーン131上に、ストップボタン132c押下

時に表示していたものと同じジョブ情報表示画面を表示した後、各種のイベント（ユーザによるタッチスクリーン 131 に対する操作等）の発生を待機する状態となる。

【0095】

一方、ジョブ削除確認画面上の“中止する”ボタンが押下された場合（ステップ S507；中止する）、制御ユニット 11 は、注目順位ジョブを削除する処理（ステップ S508）を行う。なお、このステップ S508 の処理時、制御ユニット 11 は、第 1 実施形態に係る制御ユニット 11 が表示するジョブ削除中画面（図 8（B））と同構成のジョブ削除中画面をタッチスクリーン 131 上に表示する。

【0096】

次いで、制御ユニット 11 は、未完了ジョブが残っているか否かを判断（ステップ S509）し、未完了ジョブが残っていた場合（ステップ S509；YES）には、その時点における注目順位が、その時点におけるジョブ順位の最終順位（＝その時点における未完了ジョブの総数）を超えているか否かを判断する（ステップ S510）。そして、制御ユニット 11 は、注目順位が最終順位を超えていなかった場合（ステップ S510；NO）には、注目順位を変更することなく、ステップ S502 以降の処理を開始する。一方、注目順位が最終順位を超えていた場合（ステップ S510；YES）、制御ユニット 11 は、注目順位を最終順位に変更（ステップ S511）してから、ステップ S502 以降の処理を開始する。

【0097】

そして、制御ユニット 11 は、ステップ S508 にてジョブを中止（削除）する処理を行った結果、未完了ジョブがなくなったとき（ステップ S509；NO）や、ジョブ情報表示画面上の“戻る”ボタン 54（有効なもの）が押下されたとき（ステップ S503；戻る）に、このジョブ情報表示処理を終了する。なお、ジョブ情報表示処理を終了した制御ユニット 11 は、ジョブ情報表示処理の開始直前に表示していたものと同じ種類の画面を表示している状態となる。

【0098】

また、制御ユニット 11 は、実行中の或るジョブが終了した場合（ステップ S503；ジョブ完了）にも、既に説明したステップ S509 以降の処理を、行う。すなわち、制御ユニット 11 は、未完了ジョブがなくなった場合には、このジョブ情報表示処理を終了し、未完了ジョブがあった場合には、必要に応じて注目順位を変更する処理を行った後に、タッチスクリーン 131 上のジョブ情報表示画面を現状に応じたものに、変更する。

【0099】

そして、本実施形態に係る制御ユニット 11 は、このような内容のジョブ情報表示処理を実行するユニットであると共に、ジョブ情報表示処理を実行していない状態（FAX 用基本画面、コピー用基本画面等をタッチスクリーン 131 上に表示している状態）で、ストップボタン 132c が押下された場合には、注目順位が“1”（第 1 順位）であることを記憶する処理に、このジョブ情報表示処理のステップ S506 以降の処理を続けた処理を開始するユニットとして構成されている。

【0100】

また、制御ユニット 11 は、ジョブを削除するしかない（ジョブを削除するという対処しか行えない）エラーの発生時には、制御ユニット 11 と同様に動作するユニットともなっている。すなわち、制御ユニット 11 は、ジョブを削除するしかないエラーの発生時には、ジョブを中止するか否かをユーザに問い合わせることなく、ジョブを中止（削除）するユニットであると共に、ジョブを削除するしかないエラーではあるが、ユーザに何らかの作業を行わせなければならないエラーについては、当該作業が完了したことをユーザに確認してから、ジョブを中止（削除）するようにも、構成されている。

【0101】

以上、説明したように、この第 2 実施形態に係る情報処理装置 110（制御ユニット 111）は、ユーザが、ジョブ情報の表示を行うジョブの種類を選択するための操作を行わなくてもしなくても、実行中／実行待機中の各ジョブの内容を確認できるものとなってい

る。従って、この情報処理装置 110 は、従来の複合機よりも、実行中／実行待機中の各ジョブの内容を確認する作業が行いやすい装置として機能することになる。しかも、情報処理装置 110 は、ジョブの表示順を、使用環境に適したものとすることが出来る装置（ジョブ情報表示順規定ファイルの内容を変更できる装置）となっているので、この情報処理装置 110 を用いれば、各種作業をより効率的に行えるオフィス環境を、実現できることになる。

【0102】

《変形形態》

第1実施形態に係るファクシミリ装置 10、第2実施形態に係る情報処理装置 110 は、各種の変形を行うことが出来る。例えば、ファクシミリ装置 10 は、3種の装置としても機能する装置であったが、ファクシミリ装置 10 を、ファクシミリとしてのみ機能する装置や、ファクシミリ及びコピー機として機能する装置に変形しても良い。また、情報処理装置 110 を、実行可能なジョブの種類が上記したものとは異なる装置に変形しても良い。

【0103】

また、ファクシミリ装置 10、情報処理装置 110 は、3つの装置(制御ユニット 11、スキャナ 12 及びプリンタ 13)が組み合わされた装置であったが、ファクシミリ装置 10、情報処理装置 110 と同等の機能を有する装置を、1つの装置で実現しても良く、4つ以上の装置(例えば、組み合わせることによりコピー機として機能する3つの装置と、それらの装置からなる装置に、ファクシミリとしての機能を付加できる装置)で実現しても良い。

【0104】

さらに、接触位置センサ 36、136 の代わりに幾つかの押しボタンスイッチを設けることにより、ファクシミリ装置 10、情報処理装置 110 を実現しても良いことや、ファクシミリ装置 10、情報処理装置 110 に表示させる各種画面の具体的な構成を、上記したものと異なるものとしておいても良いことは、当然のことである。

【図面の簡単な説明】

【0105】

【図1】 本発明の第1実施形態に係るファクシミリ装置の構成図。

【図2】 第1実施形態に係るファクシミリ装置の外観図。

【図3】 第1実施形態に係るファクシミリ装置に用いられている制御ユニットの外観図。

【図4】 制御ユニットが表示するFAX用基本画面の説明図。

【図5】 制御ユニットが実行するジョブ情報表示処理の流れ図。

【図6】 ジョブ情報表示処理実行時にタッチスクリーン上に表示されるFAXジョブ情報表示画面の説明図。

【図7】 ジョブ情報表示処理実行時にタッチスクリーン上に表示されるFAXジョブ情報表示画面の説明図。

【図8】 ジョブ情報表示処理実行時にストップボタンが押下された場合にタッチスクリーン上に表示される画面の説明図。

【図9】 制御ユニットが実行するジョブ中止指示受付処理の流れ図。

【図10】 制御ユニットが実行するジョブ中止指示受付処理の、図9に続く流れ図。

【図11】 制御ユニットの、或るジョブを中止するしかない状態となったときの動作を説明するための図。

【図12】 本発明の第2実施形態に係る情報処理装置の構成図。

【図13】 第2実施形態に係る情報処理装置に用いられている制御ユニットの外観図。

【図14】 第2実施形態に係る制御ユニットがタッチスクリーン上に表示する画面の説明図。

【図15】 第2実施形態に係る制御ユニット内に記憶されるジョブ情報表示順規定フ

ファイルの説明図。

【図 1 6】第 2 実施形態に係る制御ユニット内に記憶されるジョブ情報表示順規定ファイルの説明図。

【図 1 7】第 2 実施形態に係る制御ユニット内に記憶されるジョブ情報表示順規定ファイルの説明図。

【図 1 8】第 2 実施形態に係る制御ユニット内に記憶されるジョブ情報表示順規定ファイルの説明図。

【図 1 9】第 2 実施形態に係る制御ユニットが実行するジョブ情報表示処理の流れ図。

【図 2 0】ジョブ情報表示処理時にタッチスクリーン上に表示されるジョブ情報表示画面の説明図。

【符号の説明】

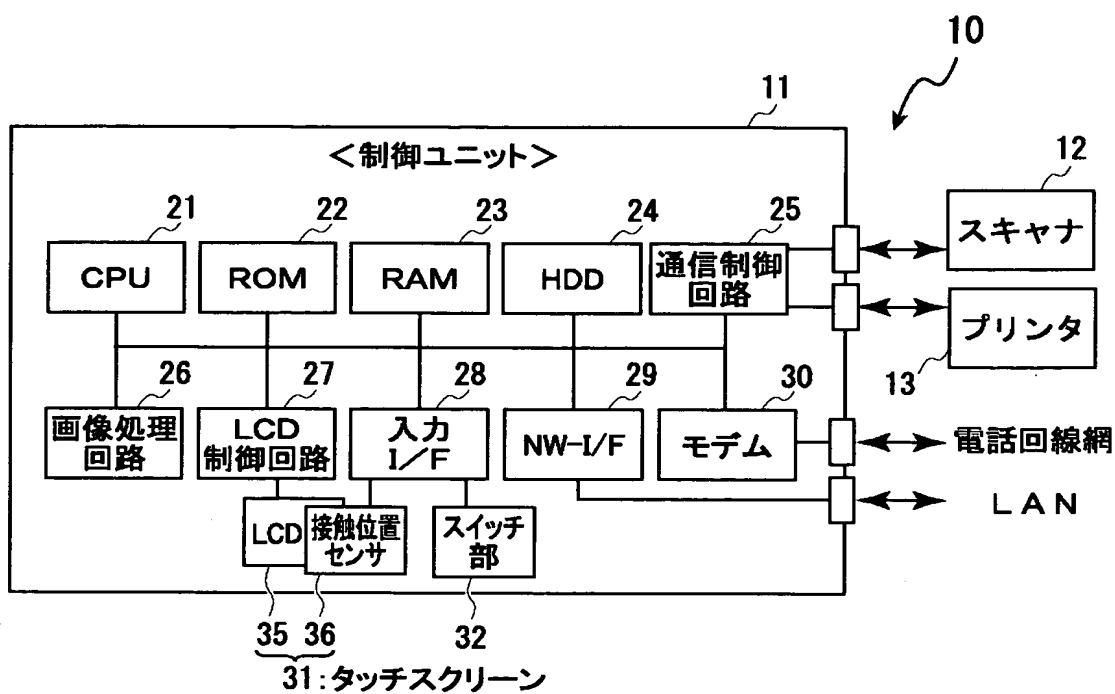
【0 1 0 6】

1 0 ファクシミリ装置、1 1, 1 1 1 制御ユニット、1 2, 1 1 2 スキャナ

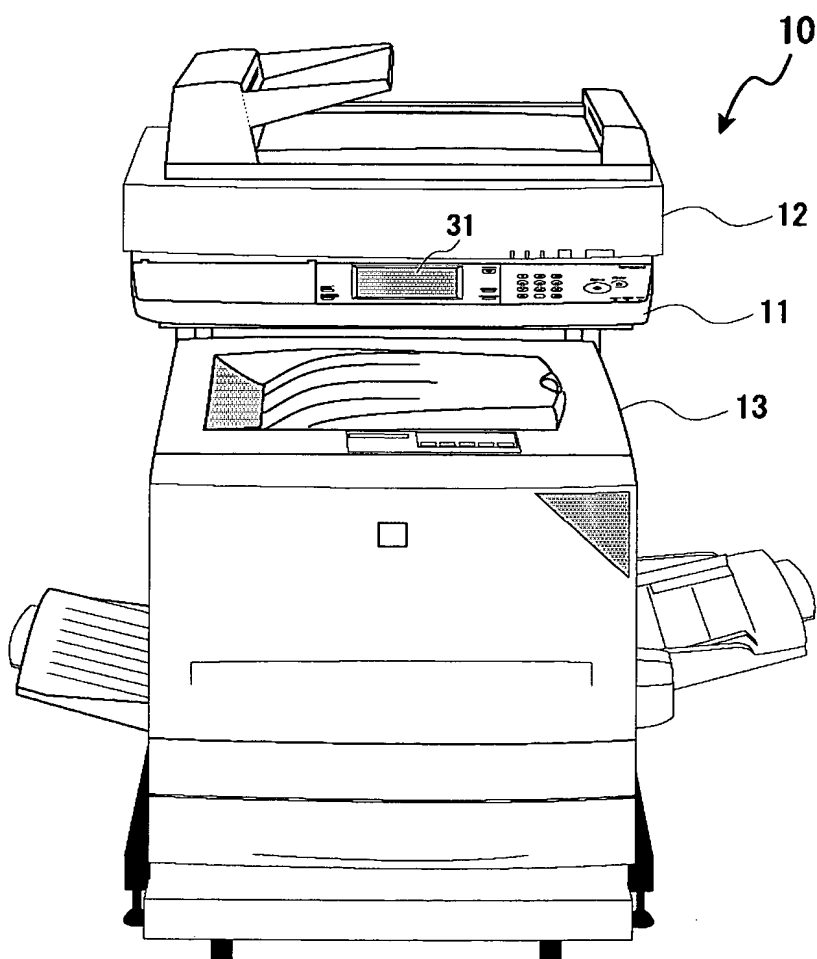
1 3, 1 1 3 プリンタ、1 1 0 情報処理装置

【書類名】図面

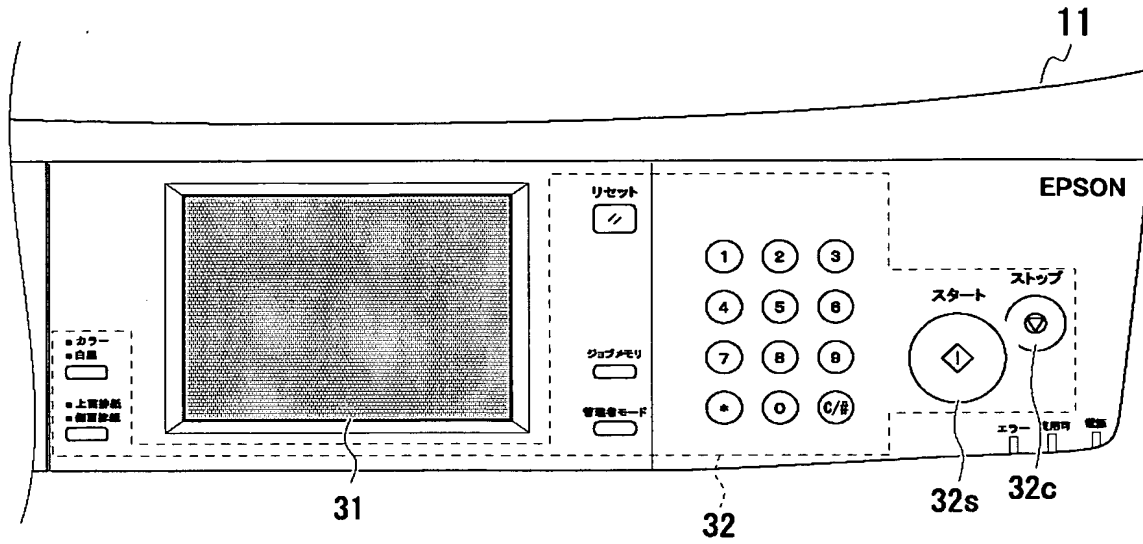
【図 1】



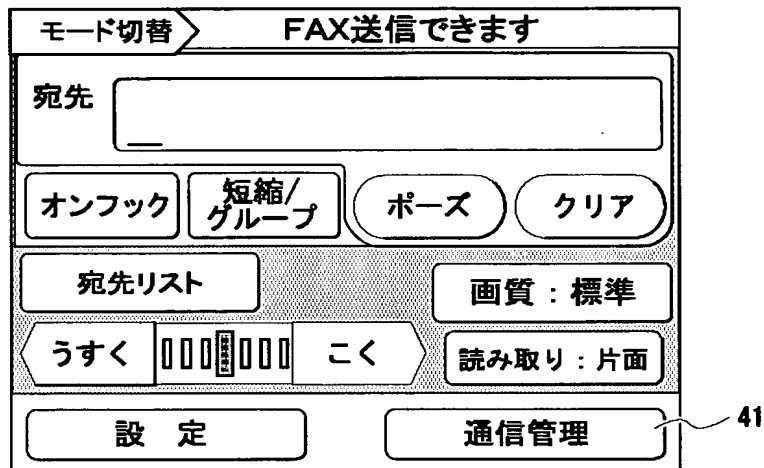
【図 2】



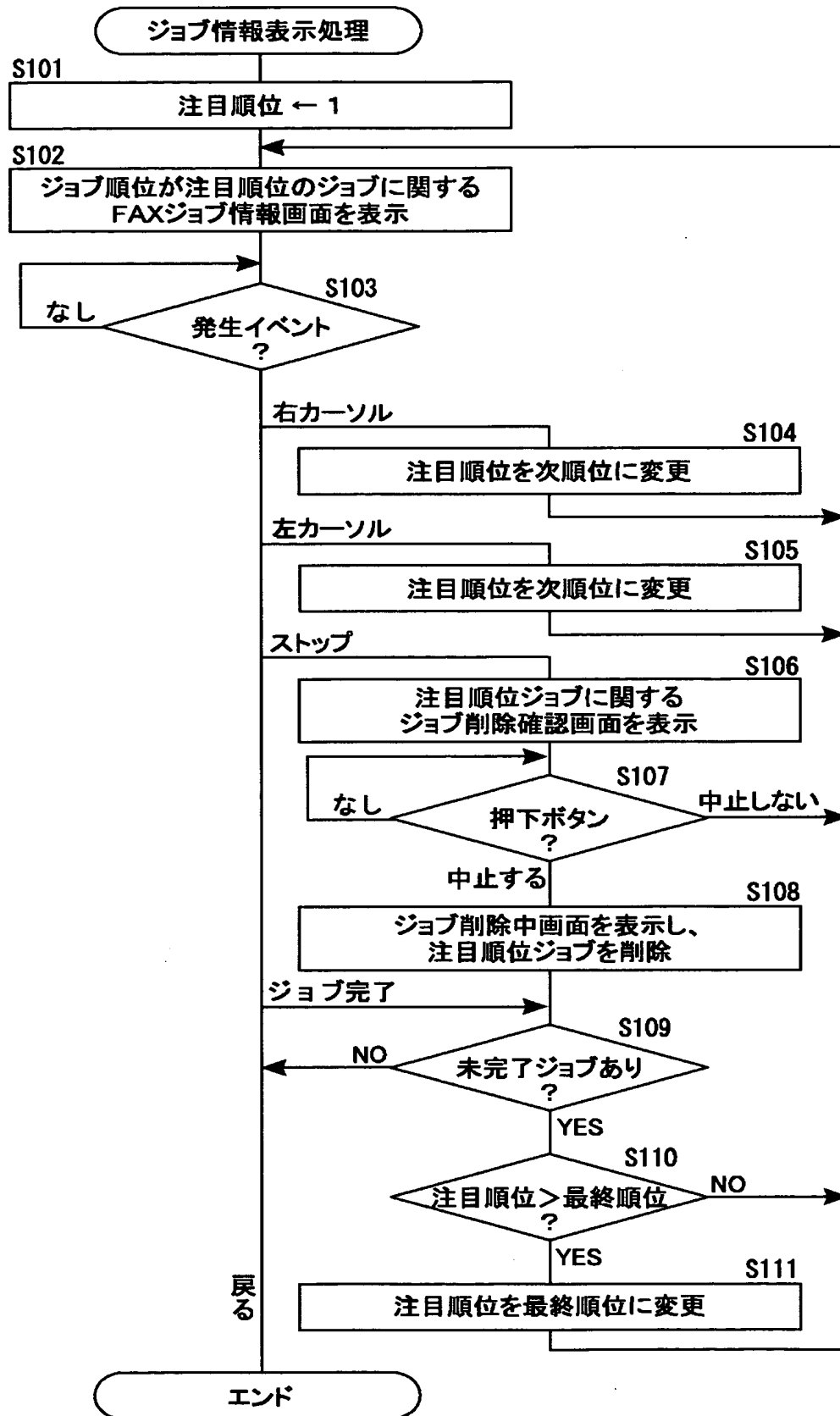
【図 3】



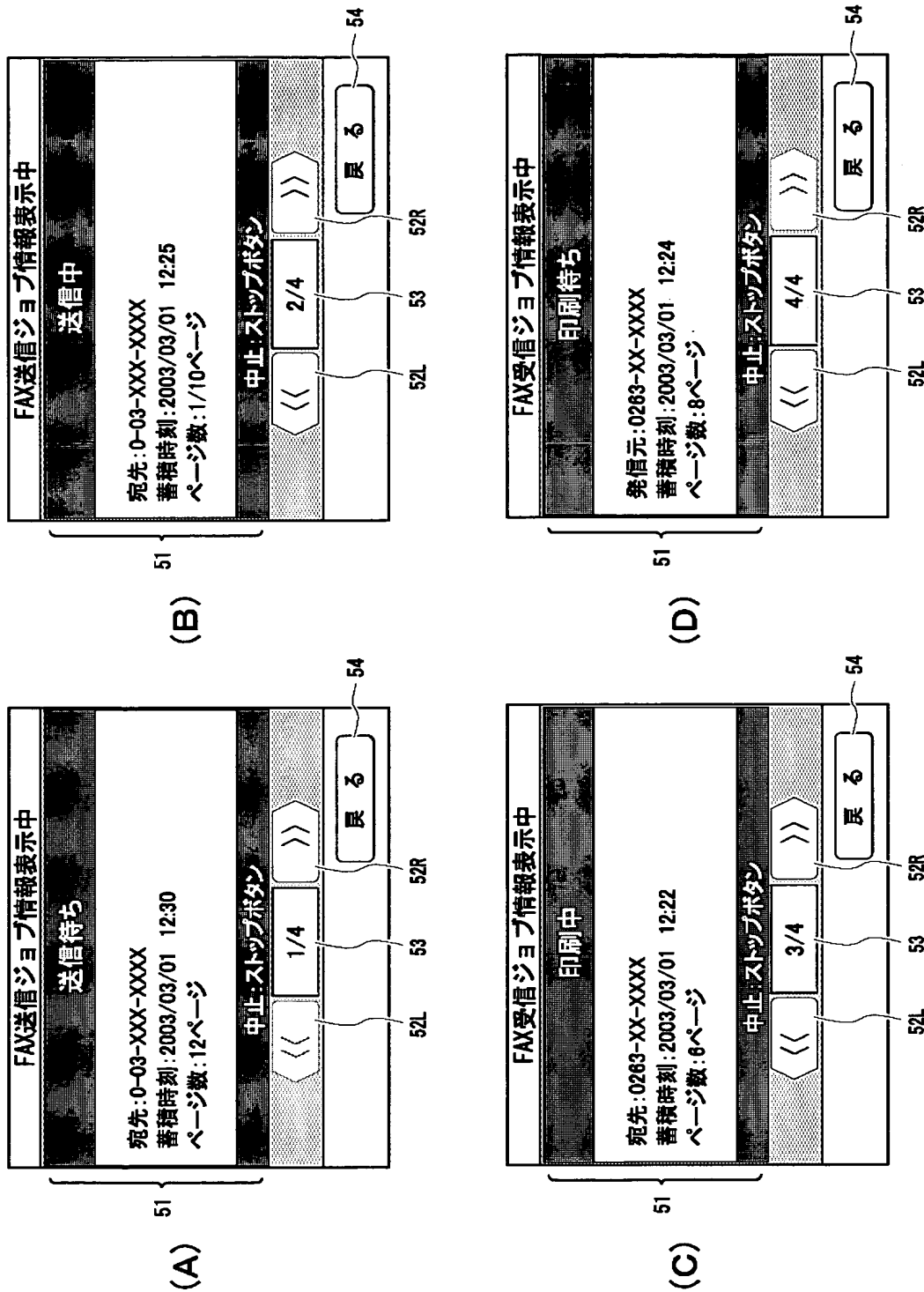
【図 4】



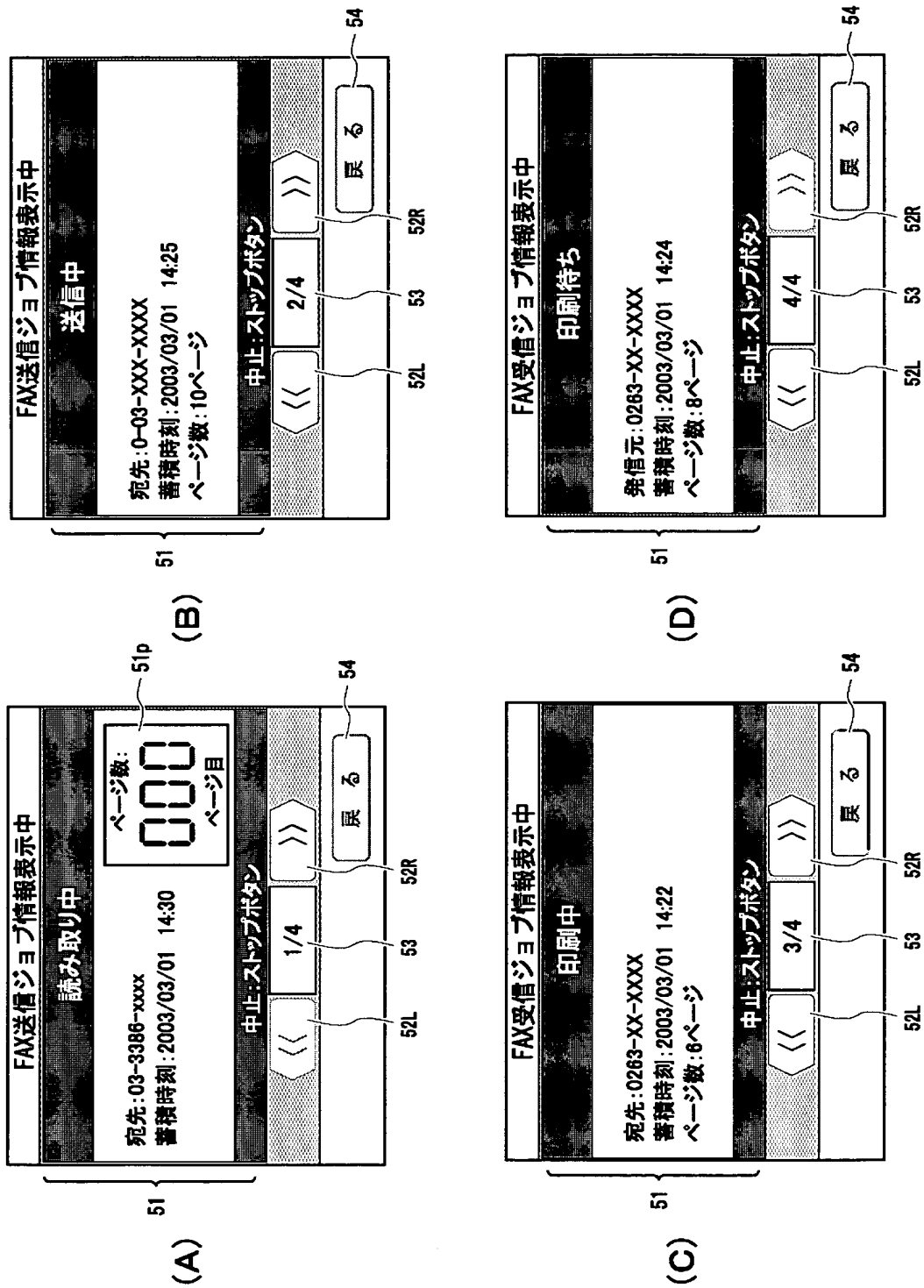
【図 5】



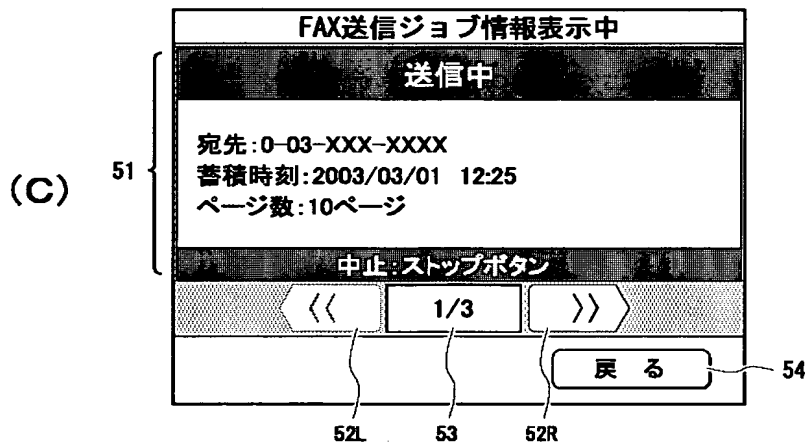
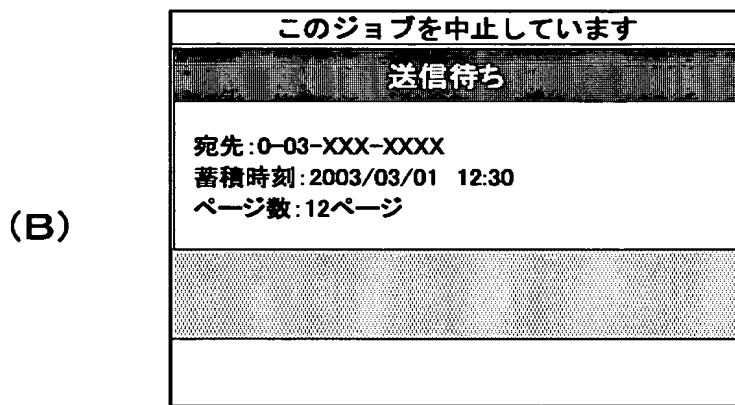
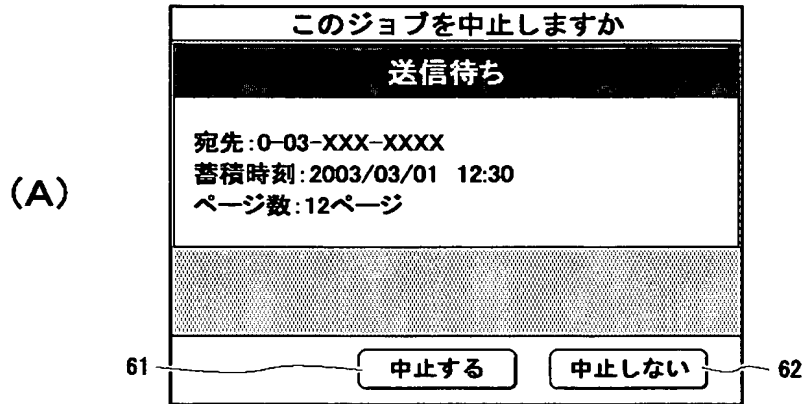
【図 6】



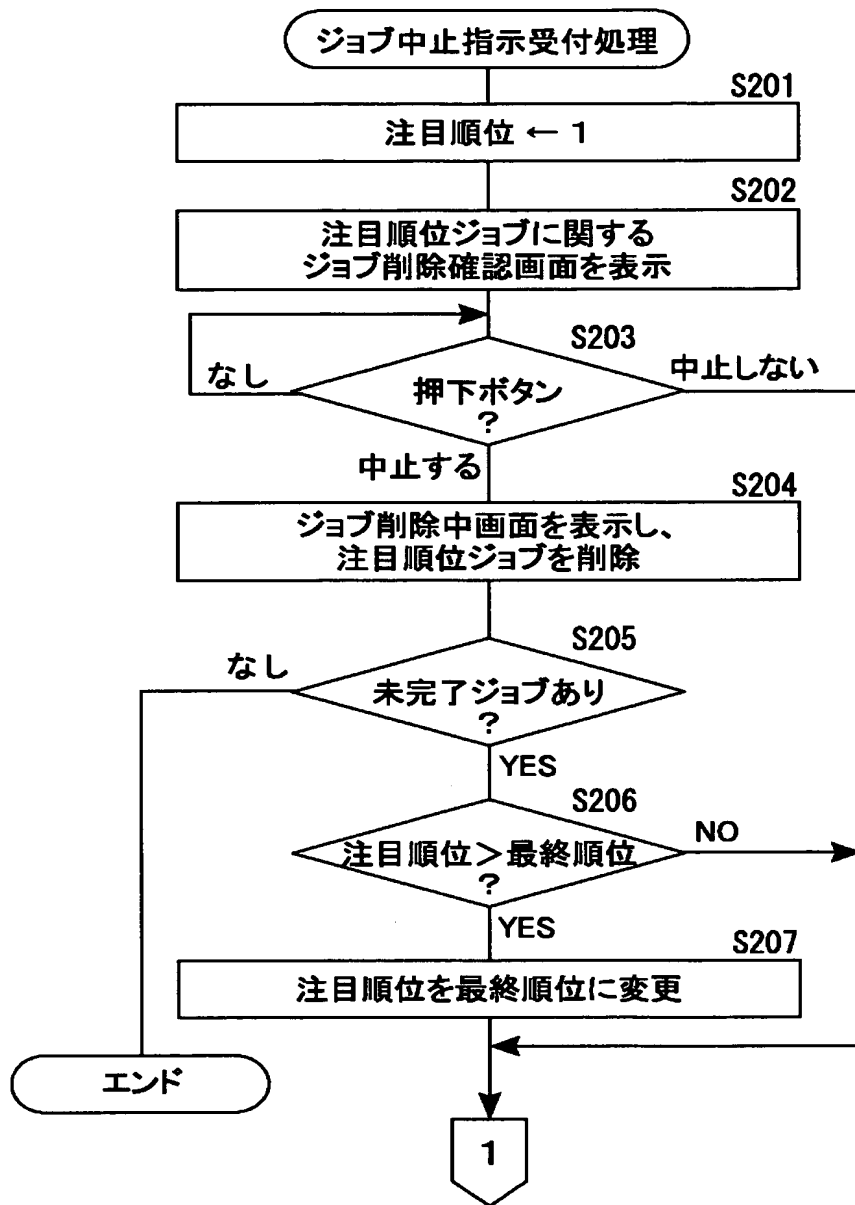
【図 7】



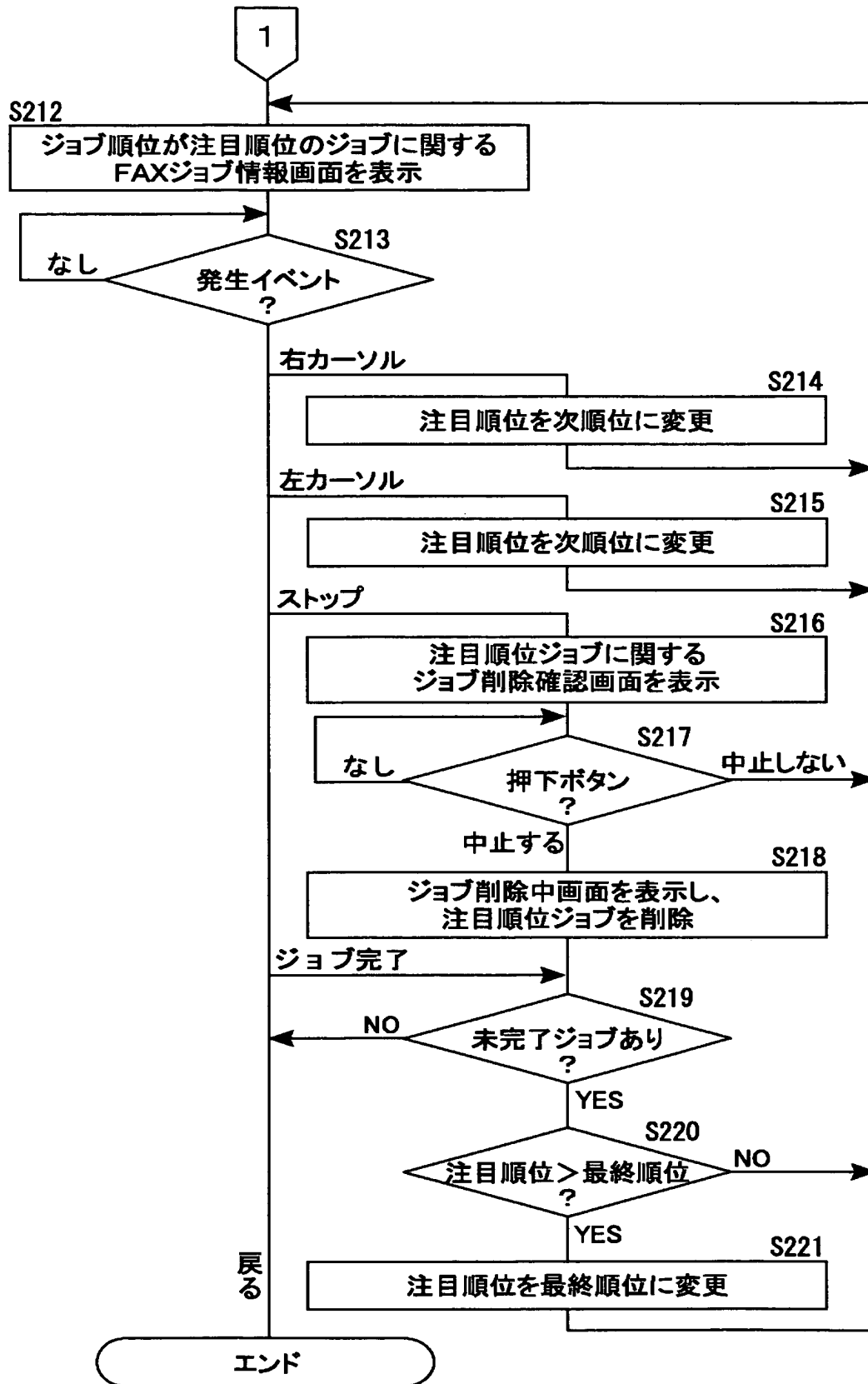
【図 8】



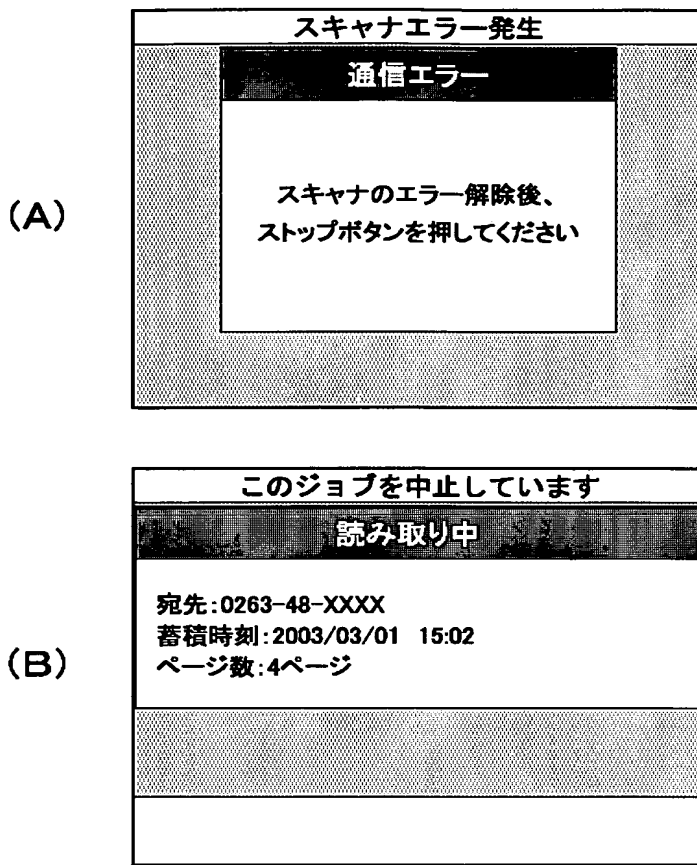
【図 9】



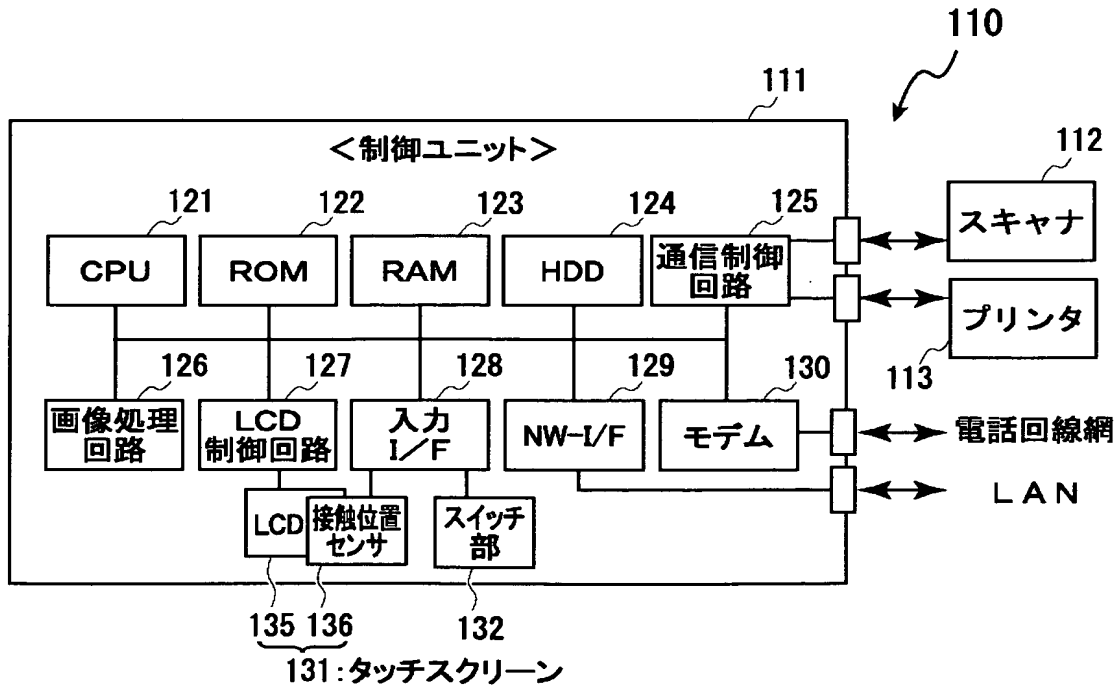
【図10】



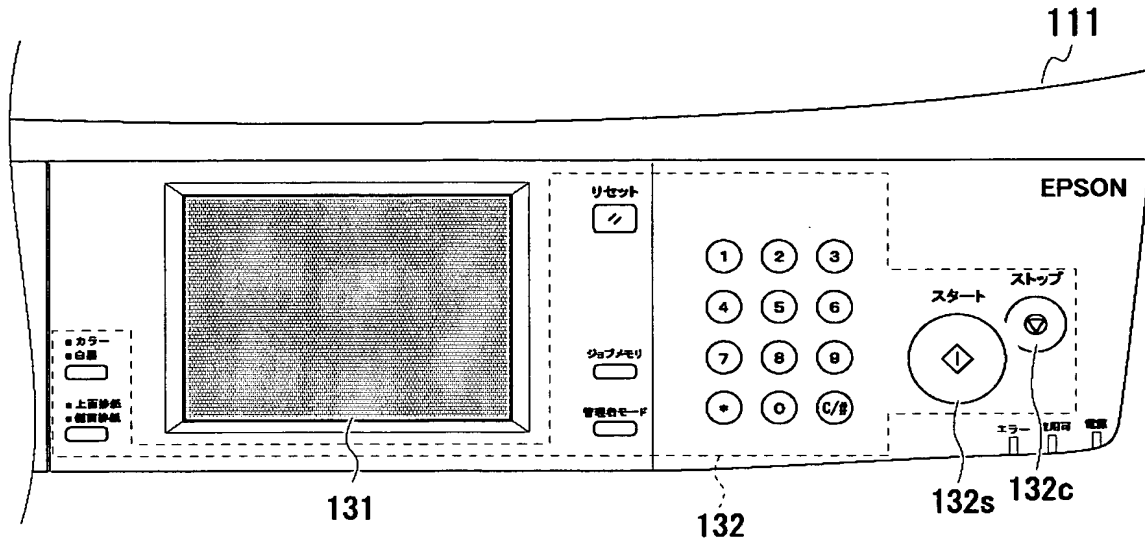
【図 1 1】



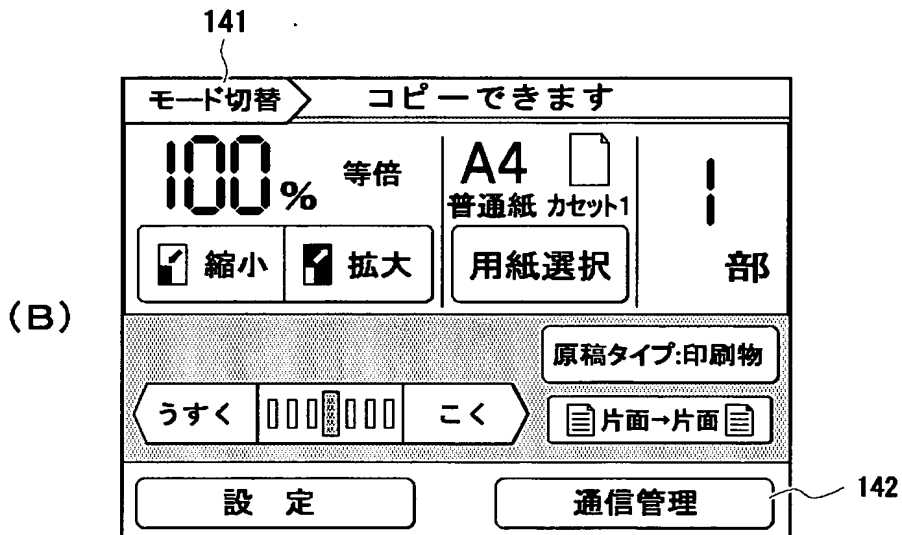
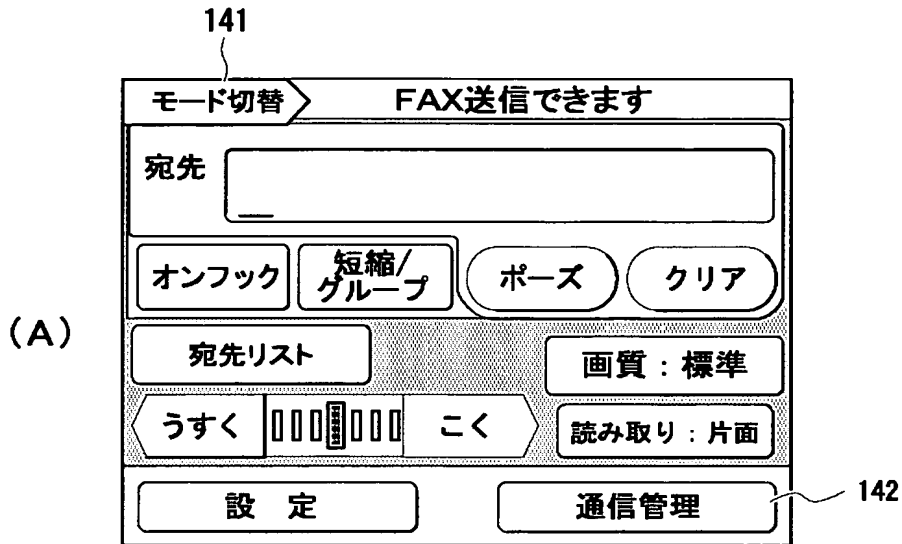
【図 1 2】



【図 13】



【図 14】



【図 15】

表示ランク	ジョブ名	グループ内 表示順指定値
0	読取(コピー)	—
	読取(ネットワークコピー)	
	読取(スキャンtoファイル)	
	読取(スキャンtoEメール)	
	読取(PCドライブ)	
	読取(FAX)	
1	送信(FAX)	0(ジョブ発生順)
2	印刷(コピー)	1(ジョブ発生逆順)
	印刷(ネットワークコピー)	
	印刷(ファイルtoプリント)	
	印刷(PCドライブ)	
	印刷(FAX)	
3	受信(FAX)	—

【図 16】

表示ランク	ジョブ名	グループ内 表示順指定値
0	読取(コピー)	—
	読取(ネットワークコピー)	
	読取(スキャンtoファイル)	
	読取(スキャンtoEメール)	
	読取(PCドライブ)	
	読取(FAX)	
1	印刷(コピー)	1(ジョブ発生逆順)
	印刷(ネットワークコピー)	
2	送信(FAX)	0(ジョブ発生順)
3	印刷(ファイルtoプリント)	1(ジョブ発生逆順)
	印刷(PCドライブ)	
	印刷(FAX)	
4	受信(FAX)	—

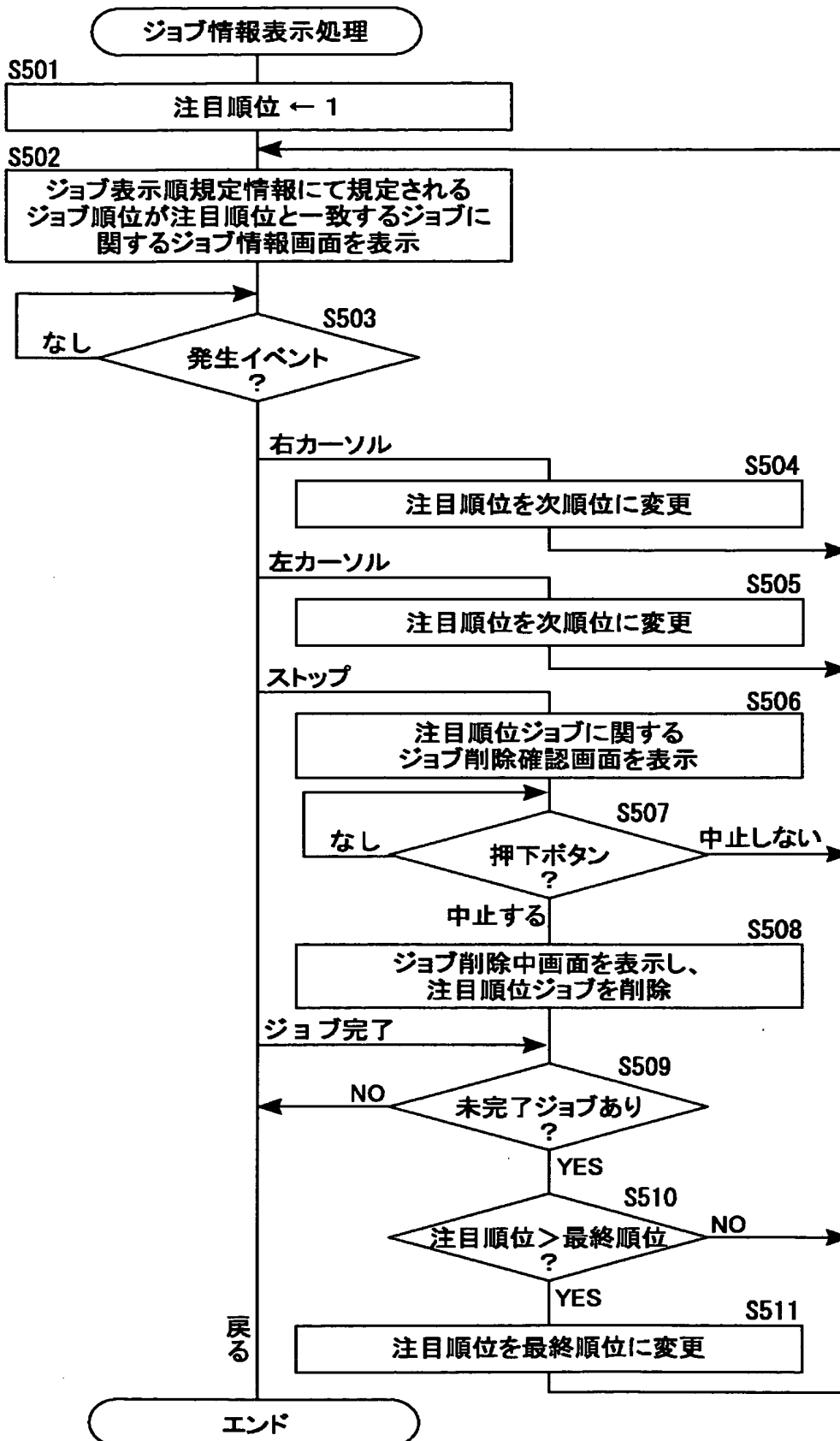
【図 17】

表示ランク	ジョブ名	グループ内 表示順指定値
0	読取(コピー)	—
	読取(ネットワークコピー)	
	読取(スキャンtoファイル)	
	読取(スキャンtoEメール)	
	読取(PCドライバ)	
	読取(FAX)	
1	印刷(コピー)	1(ジョブ発生逆順)
2	印刷(ネットワークコピー)	1(ジョブ発生逆順)
3	印刷(ファイルtoプリント)	1(ジョブ発生逆順)
	印刷(PCドライバ)	
4	送信(FAX)	0(ジョブ発生順)
5	印刷(FAX)	1(ジョブ発生逆順)
6	受信(FAX)	—

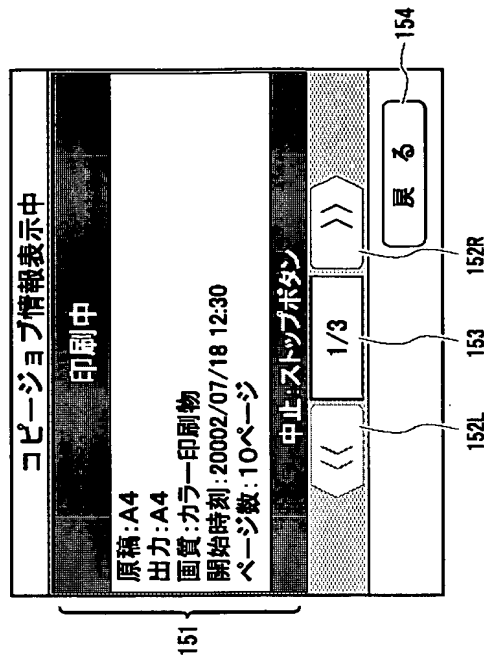
【図 18】

表示ランク	ジョブ名	グループ内 表示順指定値
0	読取(コピー)	—
	読取(ネットワークコピー)	
	読取(スキャンtoファイル)	
	読取(スキャンtoEメール)	
	読取(PCドライバ)	
	読取(FAX)	
1	印刷(コピー)	1(ジョブ発生逆順)
2	印刷(ネットワークコピー)	1(ジョブ発生逆順)
3	印刷(ファイルtoプリント)	1(ジョブ発生逆順)
4	印刷(PCドライバ)	1(ジョブ発生逆順)
5	送信(FAX)	0(ジョブ発生順)
6	印刷(FAX)	1(ジョブ発生逆順)
7	受信(FAX)	—

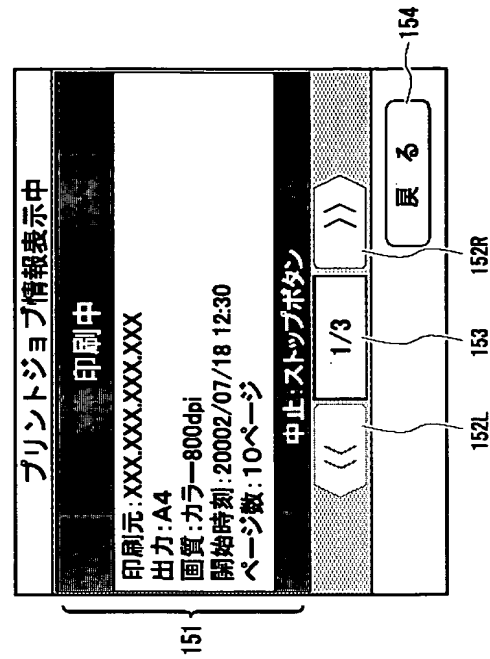
【図 19】



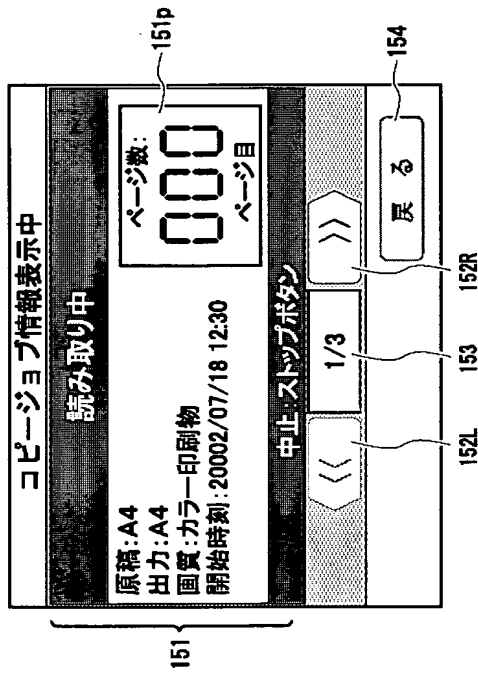
【図 20】



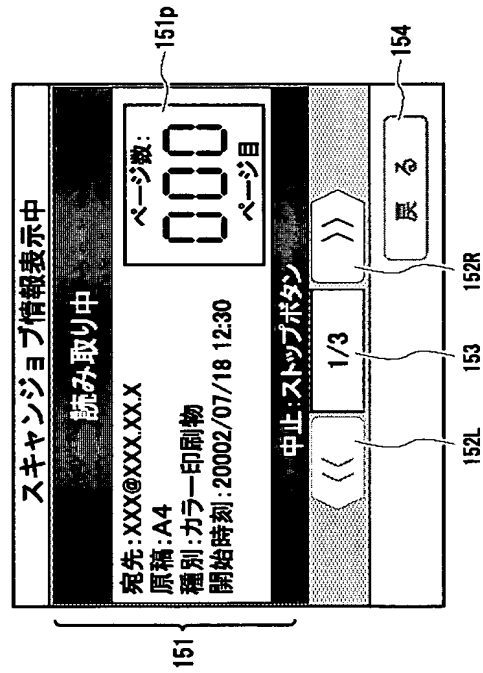
(B)



(D)



(A)



(C)

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 実行中／実行待機中の各ジョブを内容を確認する作業が行い易いファクシミリ装置を、提供する。

【解決手段】 複数のジョブを並行的に実行可能な、タッチスクリーンを備えたファクシミリ装置を、ユーザが、ボタンを押下する操作を行うことにより、タッチスクリーン上に、読取ジョブ、FAX送信ジョブ、印刷ジョブ、FAX受信ジョブという順で、各ジョブの内容が示される（内容を表示するジョブの種類を選択する操作を行うことなく、各ジョブの内容を表示させることが出来る）装置（ステップS102, S103～S105）として、構成しておく。

【選択図】 図5

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 3 - 4 2 4 4 9 3
受付番号	5 0 3 0 2 1 0 4 9 3 7
書類名	特許願
担当官	第四担当上席 0 0 9 3
作成日	平成 1 5 年 1 2 月 2 6 日

< 認定情報・付加情報 >

【特許出願人】

【識別番号】

000002369

【住所又は居所】

東京都新宿区西新宿 2 丁目 4 番 1 号

【氏名又は名称】

セイコーエプソン株式会社

【代理人】

申請人

【識別番号】

100098235

【住所又は居所】

東京都千代田区西神田 2 丁目 4 番 3 号 高岡ビル
6 階

【氏名又は名称】

金井 英幸

特願 2 0 0 3 - 4 2 4 4 9 3

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 0 0 2 3 6 9]

1. 変更年月日	1 9 9 0 年 8 月 2 0 日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都新宿区西新宿 2 丁目 4 番 1 号
氏 名	セイコーエプソン株式会社